

第二編 各 論

第五章 國防費問題

目次

第五章 國防費問題	四二一
第一節 豫算制限問題ニ對スル軍縮本會議及一般委員會ニ於ケル列國ノ態度	四二一
第一項 軍縮本會議ト豫算制限問題	四二一
第一、軍縮準備委員會ニ於ケル各國ノ態度	四二一
第二、軍縮本會議ニ於ケル各國ノ態度	四二二
第二項 一般委員會ニ於ケル列國ノ態度	四二四
第一、豫算制限問題ニ關スル一般委員會ノ議題	四二四
第二、「ベネシユ」決議案ト列國ノ態度	四二五
第二節 國防費委員會	四二八
第一項 國防費委員會ノ構成及審議事項	四二八
第一、構成	四二八
第二、一般委員會トノ關係	四二八
第三、審議事項	四二八
第二項 國防費委員會ノ議事經過	四二九
第一、概説	四二九
一、國防費委員會ノ議事概觀	四二九

二、議事中ニ於ケル我方ノ措置	四三〇
第二、議事順序	四三〇
第三、議事經過要領	四三三
(甲) 豫備的問題	四三三
(一) 各國國防費額ノ統一の報道ノ必要ナルコト	四三三
(二) 國防費額ヲ基礎トシテ各國軍備力比較ノ不可能ナルコト	四三四
(乙) 公表様式ノ形式及内容	四三六
(一) 「年次經費」ノ定義	四三六
(イ) 經費ノ定義	四三六
(ロ) 整理期間(「エキゼルシス」)計算	四三七
(ハ) 議會ノ協賛セル豫算ノ公表	四三七
(二) 國防費ノ意義及範圍	四三八
(イ) 機密基金ト經費充當ノ變更	四三八
(ロ) 總經費ト純經費	四三九
(ハ) 補助金貸付金及企業參加	四四〇
(ニ) 軍備縮少ニ因ル特別經費	四四一
(ホ) 豫算外經費	四四一
(ヘ) 附屬書案ノ定義ハ限定のニ非ス	四四二
(ト) 定額ノ繰越	四四二

(チ) 公表様式附屬表 C、D、E、F	四四二
(三) 國防費ノ分類	四四二
(イ) 公表様式	四四二
(ロ) 經費充當ノ變更	四四二
(ハ) 公表様式各項目ノ内容及分類	四四二
(ニ) 附屬書ノ定義ハ限定のニ非ス	四四二
(ホ) 經費ノ三軍別區分	四四二
(ヘ) 公表ノ様式附屬表 A、B	四四七
(四) 對照表例外事項	四四七
(丙) 公表ニ關スル問題	四四七
(一) 通報發送期限、決算	四四七
(二) 條約案第三十三條	四四八
(三) 國防ニ關スル法規ノ通告	四四九
(丁) 制限額決定ニ關スル問題	四五〇
(一) 三軍別制限額間ノ融通	四五〇
(二) 甲年度ヨリ乙年度ニ經費流用ヲ許容スヘキ限度ノ決定	四五〇
(三) 貨幣購買價值ノ變動	四五〇
第三節 専門分科會	四五二
第一項 専門分科會ノ構成及其任務	四五二

第一、構成及任務	四五一
第二、國防費委員會附託事項	四五三
第二項 專門分科會ノ事業	四五五
第一、總 說	四五五
一、專門分科會ノ事業概観	四五五
二、各國文書審査ノ準備行爲	四五五
三、各國文書審査	四五五
第二、各 論	四五七
一、豫算制度ニ關スル質問集ノ作成	四五七
二、國防費ニ關スル各國補足の文書ノ提出問題	四五九
(一) 會議開催當初ノ軍備現狀通報狀態	四五九
(二) 各國代表ニ對スル文書提出要求ニ關スル書翰ノ發送	四六〇
(三) 我方ノ文書提出	四六〇
三、各國文書審査規定ノ決定	四六一
四、各國ノ國防費ニ關スル現狀通報ニ關スル覺書ノ審議	四六三
五、各國文書ニ對スル質問綱領ノ作成	四六四
六、小分科會ノ設置ト審査規定ノ運用	四六五
(一) 小分科會ノ設置ト構成	四六五
(イ) A 小分科會	四六五

(ロ) B 小分科會	四六五
(ハ) C 小分科會	四六六
(二) 審査規定ノ運用	四六六
七、各國文書審査	四六七
(一) 英 國	四六七
(二) 印 度	四六九
(三) 瑞 西	四七〇
(四) 瑞 典	四七一
(五) 佛 國	四七一
(六) 波 蘭	四七三
(七) 「チエッコ」	四七三
(八) 丁 抹	四七四
(九) 獨 逸	四七四
(十) 米 國	四七五
(十一) 伊 太 利	四七六
八、國防費委員會附託問題ノ審査順序	四七七
(一) 附託問題中分離審議ノ問題	四七七
(二) 分離審議問題ノ報告者	四七八
(三) 報告提出時期	四七九

附屬甲、各國文書ニ對スル我方ノ「オブザーヴェーション」集……………四七九
 附屬乙、國防費同專門分科會關係重要文書表……………四八六

第五章 國防費問題

第一節 豫算制限問題ニ對スル軍縮本會議及一般委員會ニ於ケル列國ノ態度

第一項 軍縮本會議ト豫算制限問題

第一、軍縮準備委員會ニ於ケル各國ノ態度

軍縮準備委員會ハ軍縮方法トシテ人員及器材ニ依ル直接制限ト豫算ニ依ル間接制限トヲ援用シ平時ニ於ケル人員ノ制限徵兵制度ニ依ル軍隊ノ勤務期間ノ制限噸數及備砲ノ口徑ニ依ル海軍機材ノ制限飛行船ノ總數馬力並ニ容積ノ制限、飛行機ノ總數及馬力ノ制限等ノ直接制限ニ加フルニ經費ノ制限ニ依ル陸軍機材及海軍機材ノ間接制限並ニ陸海空軍及軍隊の組織團體ニ對スル年次經費總額ノ制限ヲ條約案ニ規定セリ

右ハ從來ノ華府倫敦會議等ノ器材直接制限方法ニ對シテ軍縮事業ニ一新機軸ヲ出シタルモノナルモ豫算ニ依ル間接制限方法ハ人員及器材ニ依ル直接制限ニ比シ一層複雜ナル財政經濟上ノ諸問題ヲ包含シ居リ右原則カ軍縮準備委員會ニ於テ採用セララル爲メニハ多少ノ曲折ヲ經タリ

茲ニ右委員會ニ於ケル各國ノ態度ヲ回顧スルニ

昭和二年第三回軍縮準備委員會會議ニ於テ委員會ハ佛國代表ノ提案ニ基キ本國軍隊、在本國軍隊の組織團體在海外軍隊及其ノ増援隊並在海外軍隊の組織團體ニ對スル豫算年度毎年ノ總經費ノ制限ヲ審議シタリ其際英伊日代表ハ豫算制限ハ專ラ公表ニ依リ行ハルコトヲ要ストノ意見ナル旨ヲ聲明シ米國及獨國代表ハ豫算制限ニ關スル規定ヲ條約案ニ含マシムルコトニ關シ一般の留保ヲナセリ

昭和五年第六回後半期會議ニ於テ英國及伊國代表ハ從來ノ態度ヲ一變シテ軍事費ノ制限ヲ主張シ且陸軍機材ノ制限カ豫算ニ依ル制限ニ決定シタル關係上大勢ハ軍事費ノ制限ニ同意シ陸海空軍豫算額制限ノ主義ヲ認ムルニ至リタルカ米國代表ハ

從來ト齊シク豫算ニ依ル制限ニ關シ一般の留保ヲ爲シ獨逸代表ハ豫算専門委員會ノ報告アル迄一般の留保ヲ爲シ我代表亦最後迄其ノ主義ヲ變更セス一般の留保ヲ爲シタリ

右主義ヲ受諾スルニ當リテ數多ノ代表(「ルーマニア」國代表ヲ含ム)ハ右制限ニ際シ各國特有ノ狀態即チ經濟事情各通貨ノ購買力各國ノ工業能力及特ニ條約署名ノ際ニ於ケル軍用機材ノ狀況ヲ考慮スルコトノ必要ナル旨ヲ宣言シタリ

第二、軍縮本會議ニ於ケル各國ノ態度

一、昭和七年二月八日より同二十四日ニ至ル本會議一般討議ニ於テ豫算制限問題ニ論及セル代表ハ少數ナリシモ米國代表ハ從來ノ態度ヲ變シ

米國ハ器材ノ直接制限ノ補助の手段トシテ器材經費ノ制限ヲ考慮スルノ用意アリ蓋シ右ハ量の制限ニシテ實施セラルル場合質的競争ヲ防止スルニ有效ナルヘケレハナリト云ヒ

諾威委員ハ軍備競争ヲ防止スル最良ノ方法ハ軍費ヲ制限スルニ在リ吾人ハ本問題ノ技術的複雜性ニ依リテ生スル困難ヲ克服セル豫算専門家ノ完備セル報告ヲ手ニセリ豫算制限ハ國防豫算ノ全部及空軍ヲモ含ム軍備ノ重ナル各種數ニ適用セサルヘカラス然レトモ豫算制限ハ直接制限カ實現スル限リ之ト併行シテ行ハレサルヘカラス直接制限ハ人員ニモ器材ニモ適用セラルヘキナリト主張セリ

波蘭代表ハ「或ル一國カ軍事の組織團體ノ爲ニ本來ノ軍事費ノ額ニ上ル迄ノ莫大ナル經費ヲ用フルモノトセハ當然之ヲ考慮スヘキ狀態ヲ惹起スヘシ軍隊及廣義ノ軍事の組織團體ニ對スル經費ノ總括制限ハ軍備制限ノ唯一ノ有效ナル努力ナリ軍費ノ制限ニ付テハ例ヘハ國防組織カ久シキニ互リ絶エス整備セラレ曾テ其ノ領土ヲ荒サレタルコト無ク又ハ外國ニ占領セラレタルコト無キ國ノ經費ト國防組織ノ一切ヲ人類ノ曾テ見タルコトナキ重大ナル經濟危機ノ際ニ建設セサルヘカラサリシ國トノ間ノ合理的關係ノ設定ノ如キ未解決ノ問題アリ會議ニ於テハ注意シテ之ヲ研究セサルヘカラス」ト述ヘ波斯代表ハ「侵略ヲ止メ正當防衛ノミヲ認ムトスルニ付テハ同時ニ攻撃的武器ノ廢止、要塞ナク且工業上充分設備ナ

キ弱少ナル國ノ防禦方法ヲ鞏固ニスルコトヲ考慮シ得ヘシ右ノ場合ハ若シ豫算制限ノ原則カ受諾セラルルニ於テハ之ヲ豫見セサルヘカラスト」云ヘリ

瑞典代表ハ「豫算専門家ハ軍事豫算制限ニ關シテ最モ興味アル報告ヲ提出セリ其ノ案ハ最モ價值アル討議ノ基礎トナリ得ルモノナリ然レドモ豫算専門家ガ右報告ヲ提出後其豫見セサリシ事件發生シ豫算制限ノ適用ヲ困難ナラシメタリ即チ多數ノ國ハ金本位ヲ放棄シタリ故ニ此ノ爲ニ構成セラルヘキ委員會カ貨幣購買價值變動ノ場合ノ豫算制限問題ヲ特ニ注意スルコト必要ナリ」ト云ヒタルモ

獨逸委員ハ豫算制限ニ反對シテ其ノ提案中ノ「ノート」ニ

「獨逸代表ハ近來金本位ノ確乎タル基礎ノ放棄頻々トシテ行ハレ急激ニシテ豫見スヘカラサル購買價值ノ變動ヲ來シ從テ現在軍縮ノ有效ナル手段トシテ經費制限ヲ採ルコトヲ得ス現在ノ經濟的及貨幣の事情ノ下ニ此ノ方法ヲ執ラハ軍縮方法ノ平靜ナル進行ヲ阻害スル不斷ノ除外例ヲ認メサルヲ得サルヘシ且經費制限ノ共通案ヲ設置スルコトハ各國ニ現在存在スル貯藏器材ニ關スル非常ナル差異ノ然非常ナル困難ヲ齎スヘシ

他方經費ノ制限無クトモ有效ナル直接軍縮ハ當然其結果トシテ過大ナル軍備ノ爲各國民ノ苦シメル重キ財政的負擔ニ對シ必須ノ制限ヲナサシムヘキコトヲ忘ルヘカラスト」述ヘ

尙蘇聯代表ハ昭和三年三月軍縮準備委員會ニ於ケル其舊提案タル軍縮條約案ヲ再提出シタルヲ以テ其第五章軍事豫算第三十四條第三十五條第三十六條ハ新提案ト見ルコトヲ得ヘシト云ヘリ

二、右一般討議及之ニ次キ各國ノ提出セル提案ニ就テ豫算制限問題ニ關スル各國提案ヲ綜合スルニ左ノ如シ

豫算制限反對 獨逸

金本位ノ放棄及之ニ伴フ貨幣購買力ノ變更ニ鑑ミ經費制限ハ不適當ナリ(獨)

豫算制限賛成

(イ) 總括又ハ三軍別經費制限(諾威及波蘭)

總括又ハ空軍ノ章ヲ含ム各章ノ制限(諾威)

軍隊及廣義ノ軍隊の組織團體ニ充ツル經費ノ總括制限(波蘭)

(ロ) 直接制限ニ比例スル經費ノ縮減(蘇聯邦、丁抹)

軍備ノ直接制限ニ比例スル經費ノ縮減(蘇)

軍備ノ一般の標準ノ縮少ニ比例スル經費ノ縮減(丁)

(ハ) 直接及間接制限ノ併用(瑞西、西班牙)

或種器材ノ直接制限ヲ以テ補フ一般的方法トシテノ豫算制限(瑞西)

貯藏器材、製造及目錄作成ニ依ル直接制限ヲ併用セル豫算制限(西)

(ニ) 一般事情ノ考慮(瑞典)

豫算方法殊ニ之ヲ貨幣購買力變動ノ場合ニ適用スル爲ノ審議(瑞典)

(ホ) 特殊事情ノ考慮(波蘭、波斯)

國防組織力久シキニ互リ絶エス整備セラレタル國ノ經費ト國防組織力最近ニ爲サレタル國トノ間ニ設定スヘキ關係

ノ審査(波蘭)要塞ヲ有セス且工業上ノ施設不十分ナル國ノ防備方法ヲ強固ニスルコトヲ豫見スルノ必要(波斯)

(ヘ) 雜

機密基金ノ廢止(蘇)

軍事豫算ノ綜合(同)

第二項 一般委員會ニ於ケル列國ノ態度

第一、豫算制限問題ニ關スル一般委員會ノ議題

一般委員會ハ各種問題ノ原則ヲ決定スヘキ任務ヲ負フモノナルヲ以テ豫算制限問題ニ付テハ年次經費ノ總括制限(條約案第二十九條)―豫算制限ノ原則問題同方法ノ擴張及直接間接方法ノ併用問題ニ關スル提案―及陸軍器材ノ豫算ニ依ル制限(條約案第十條)―量ノ制限及豫算ニ依ル制限ノ併用―(註、海軍機材ノ豫算ニ依ル制限即條約案第二十四條ハ海軍委員會議題)

ヲ其議題中ニ入レアルモ本會期中未タ是等問題ニ付テハ討議ニ至ラス(海軍委員會モ國防費委員會ニ先議セシムルヲ可トシ討議セス)

第二、「ベネシユ」決議案ト列國ノ態度

第一會期ノ主要結果ヲ綜合シタル「ベネシユ」決議案中國國防費ノ豫算制限又ハ公表問題ハ主要國間ノ私的會談ニ由ルモノナルカ之ニ關スル主要國ノ態度ハ第一編第二章第八節ノ私の會談及決議案中ニ既述セラレタル通り最初米國側ハ米國案ヲ審議セスシテ豫算制限ヲ論スルヲ困難トセルモ主義上ノ留保ヲ爲シテ内協議ニ參加シ

英國側ハ總括制限ヨリ三軍別制限ヲ可トシ且他國力年々軍事豫算ヲ増加セルニ拘ラス過去七年間ニ二割ノ縮減ヲ爲シタルヲ以テ之以上ノ縮減ハ國內ノ輿論ニモ鑑ミ其ノ率ヲ相當考慮セラレヘキナリト主張シ「サイモン」案トシテ「國防費ノ委員會及分科會ハ其ノ事業ヲ進メ能フ限り速カニ之ヲ終了シ會議カ國防費ノ制限或ハ公表ニ關スル規定ヲ決スルコトヲ得セシムルコト」トスルノ案ヲ出シタルニ對シ

佛國側ハ總括制限ヲ主張シ

「(一) 會議ハ其事業再開後如何ナル國防費制限及公表ノ制度カ各國民ニ財政的負擔ノ輕減ヲ保證シ且條約ニ依リ認メラレタル量の及質的軍縮ノ措置カ許容セラレタル武器ノ完成及發展ニ依リ無効トナルヲ妨ケ得ルヤヲ決定スヘシ

(二) 右ノ爲ニ執ルヘキ決定ノ目的ヲ以テ會議ニ代表セラレタル各國政府ハ一般委員會ノ次回迄ニ各國ノ特殊事情ノ留保ノ下ニ

(イ) 或ハ各國ニ關スル限リ受諾スル器材及人員ノ輕減カ直チニ齎シ得ル節約額
(ロ) 或ハ條約期間ノ間少クトモ(イ)ニ目セラレタル節約額ニ等シキ節約ヲ得且維持センカ爲ニ現在ノ豫算トノ關係ニ於テ次ノ國防費豫算ノ上ニ行フコトヲ約束スル「パーセンテージ」ヲ通知セサルヘカラス」

トノ案ヲ主張シ

日本ハ英國ニ對シ日本ハ過去十年ニ互リ陸海軍共豫算ノ大縮減ヲ實行セリトテ數字ヲ示シテ説明シ從テ英國同様特別ノ考慮ヲ求ムヘキ立場ニ在リト述ヘ更ニ豫算ノ總括制限ニハ賛成ナリト云ヒ「サイモン」案ヲ可ナリト認メ佛國案ニ反對ナリシ處佛國案ニ對シテハ英米共ニ難色ヲ示シ米國ハ英國案ノ趣旨ニ加フルニ此ノ點ニ關シ

「會議ハ制限又ハ縮少ヨリ生スル節約ハ

(イ) 或ハ條約ノ字句ニ從ヒ器材ノ縮少ノ基礎ニ於テ

(ロ) 或ハ先年ノ豫算トノ關係ニ於テ豫算ノ總括縮少ニ依リテ

爲サルヘキモノナリ」

トノ案ヲ出シ小國等ノ意見モ加ハリテ結局「ベネシユ」案トシテ一般委員會ニ上程セラレタル左ノ如キモノニ落付キタリ

(決議三、第二期會議ノ準備(ニ)國防費ノ制限)

(イ) 會議ハ事業再開ニ際シ各國ノ特殊事情ヲ考慮シ如何ナル國防費制限又ハ公表ノ方法カ各國民ニ其財政的負擔ヲ輕減スル最良ノ保障トナリ得且條約ニ規定セララルル質的及量的ノ軍縮ノ措置カ許容セラレタル軍備ノ増加又ハ完成ニ依リ無意義トナルコトヲ防止スルヤヲ決定スヘシ

(ロ) 前項ニ從ヒ執ルヘキ決定ノ爲會議ハ國防費委員會及専門分科會カ其委任セラレタル事業ヲ繼續シ且完成シテ能フ限リ速ニ報告ヲ提出センコトヲ希望ス會議ハ其ノ幹部會カ右報告ノ基礎ノ上ニ各國ノ特殊事情ヲ考慮ニ入レ上記ノ目

的ヲ達スル案ヲ立テンコトヲ要求ス

右「ベネシユ」案カ一般委員會ニ上程セララルヤ

米國委員ハ右ニ關シテ

「國防費委員會ハ其事業ヲ完了セス決議ハ其ノ研究ノ結果ヲ苟ニ判斷ヲ下サントセス各國ハ之カ結論ヲ判斷スルコト自由タルヘシ又決議ハ總括制限カ經費制限ヲ以テ補フ器材ノ制限カ又ハ此兩者ノ中間カノ何レカ最後ニ會議ノ決定トナルヘキヤノ問題ヲ未決ニセリ

米國政府ハ總括制限ヲ米國ノ如キ其ノ軍備ヲ著シク縮少セル國ニ適用スレハ公正ニ非スト思考スルヲ以テ之ヲ米國ニ適用スルコトニハ常ニ反對シ來レリ米國政府ハ自分ニハ斯ル方法ヲ受諾シ得サルコトヲ明白ニセルカ右決議ハ他國ノ政府カ其ノ特別ノ必要及地域的ノ要求ニ依リ望マシク且有效ナリトスルナラハ其ノ間ニ此ノ方法ヲ執ルノ可能性ヲ殘シタリ右ハ米國代表カ常ニ執リタル態度即チ此方法ノ一ハ直接制限ヲ補足シ且確實ニスヘキモノナリトスルコトニ合致ス」ト云ヒテ一般的留保ヲ爲シ

英國委員ハ

「經費制限問題ハ一方各國財政制度及會計制度ノ多樣ナルコト及他方最近ノ財政上ノ種々ナル措置ニ依リ其ノ固有ノ困難ヲ有ス

既ニ英國ノ如ク軍費ヲ縮少シタル國モアルニ付若シ現狀ヲ基礎トシテ天引ヲ行ヘハ各國ハ次期軍縮會議ノ近ツクヤ會議ニ於テ既ニ縮少シタルノ事實ノ考慮セラレサルヲ虞レ爲サントスル縮少ヲモ爲ササルコトトナルヘシ且又「フリーバー」案ノ豫期スル兵數以下ニ之ヲ縮少セル國ノ如キハ例ヘ經濟事情ニテ今之ヲ縮少シ得ルモ事情之ヲ許サハ増加スル必要アリ英國委員ハ各國ノ特別ノ事情ヲ考慮シテト云フ斯ル意味ニ解シテ決議ニ贊成ス」ト云ヒ

日本委員ハ決議案(イ)ノ末段ハ各國ノ特殊事情ニ之ヲ適用スル場合其實行性ニ關シ疑問ヲ有スルモ本件ニ關シテハ將

來討議ノ機會アルヘキヲ以テ今之ノ採擇ニ反對セスト述ヘ原案通り可決セリ

其ノ際蘇聯委員ハ蘇聯邦ハ目下建設及發展ノ時期ニ在リ官吏ハ多忙ナルヲ以テ政府ハ國防費委員會再開後其ノ代表者カ
壽府ニ滞在スルヲ許可スルヤ否ヤ疑問ナリ依テ此點ニツキ決定ヲ留保スト云ヘリ

第二節 國防費委員會

第一項 國防費委員會ノ構成及審議事項

第二、構成

昭和七年二月二十六日軍縮會議幹部會ノ決定ニ基キ國防費委員會ハ二月二十七日軍縮會議參加各國ノ代表出席ノ上第一回會議ヲ開キ「デ、ヴァスコンセロス」氏（葡）ヲ議長ニ選任シ三月十日第二回會議ニ於テ「マントヴィル」氏（智）及「ラデュレスコ」氏（羅）ヲ副議長ニ「フランソワ」氏（和）ヲ報告者ニ選任セリ

第二、一般委員會トノ關係

國防費委員會ト一般委員會トノ關係ハ一般委員會ト特別委員會トノ關係ヲ明ニセル三月八日一般委員會ノ決定ニ基ク
即チ國防費ニ關スル原則問題ハ一般委員會ニ於テ之ヲ決定スヘク其審議ノ結果國防費委員會ノ意見ヲ求ムル必要アルモノ
若クハ原則ノ先決ヲ必要トセサル技術的問題ハ之ヲ國防費委員會ニ於テ討議シ同委員會ヨリ一般委員會ニ報告ヲ提出スル
モノトス尙國防費委員會ノ審議中原則ノ決定ヲ必要トスルモノハ元ヨリ之ヲ一般委員會ニ於テ討議シ其ノ決定ヲ求ム

第三、審議事項

前述ノ主旨ニ從ヒ一般委員會カ幹部會ノ起案ニ基キ國防費問題ニ付テ國防費委員會ノ審議事項ト定メタルモノ左ノ如シ

（一）條約案第二十九條（年次經費ノ總括制限）

本條ニ關スル提案特ニ

（イ）貨幣購買價值變動ヲ考慮シ豫算ノ方法ノ繼續的研究

（ロ）總括及各軍別經費ニ關スル制限

（ハ）機密基金ノ廢止及軍事豫算ノ統一

（ニ）條約案第三十三條（陸軍及海軍經費ノ公表）

（三）條約案第三十八條（總括經費ノ公表）

（四）豫算専門家委員會ノ報告（G. 132. 1931. IX）ノ審査

（イ）公表ニ關スル報告ノ部分

（ロ）（一）ニ列舉セル問題ニ關スル限り制限ニ關スル報告ノ部分

第二項 國防費委員會ノ議事經過

第一、概 說

一、國防費委員會議事概觀

國防費委員會ハ二月二十七日ヨリ五月二十六日迄十三回ノ會議ヲ開キ其ノ間必要事項ノ研究及各同文書ノ審査ヲ爲サシム
ルカ爲専門分科會ヲ設置シ尙一般委員會ノ決定シタル審議事項ニ基キ議事順序ヲ決定シ豫算専門家委員會ノ報告ヲ審議ノ
範圍トシ豫備の問題難形表ノ形式及内容公表ニ關スル問題、制限額決定ニ關スル問題ノ順序ニ依リテ討議ヲ重ネタルカ其
ノ内豫備の問題タル各國國防費額ノ統一の報道ノ必要ヲ認メ且國防費額ヲ基礎トシテ各國軍備力比較ノ不可能ナルコトヲ
假ニ承認シ「國防費」ノ意義及範圍竝ニ分類ニ關スル諸問題中ノ「經費」ノ定義ニ付テ報告第五章ノ結論ヲ默認シ「附屬
書案ノ定義ハ限定的ニ非ス」トノ原則ヲ採擇シタル外一切ノ問題ヲ専門分科會ニ附託シタリ尤モ軍需工業又ハ補助工業ニ
投資シタル私有資本制限及公表ニ關スル蘇聯邦ノ提案ハ原則問題先決ノ要アリトシテ之ヲ幹部會ニ送付シ其決定ヲ經テ一
般委員會ニ討議シタリ

二、議事中ニ於ケル我方ノ措置

國防費委員會審議事項中我方ニトリ利害ノ緊切ナルハ災害又ハ事變費ニ對スル取扱振ナルカ我方ニ於テハ條約附屬書案第五項（軍隊カ緊急ノ場合民衆救助ノ爲要シタル經費ハ受益者カ之ヲ支拂フト否トニ關セス公表様式ヨリ除外スヘキモノナリ）ハ國ノ内外ヲ問ハス政府カ其ノ權利義務ノ行使上民衆ノ生命財産保護ニ任スル場合ニ要スル經費ヲモ包含スヘク適當ナル修正ヲ加ヘ以テ斯ル經費ハ離形表ヨリ除外シ制限内ノ國防費ヲ構成セサルモノトスル要アルヲ主張シ又各年間ノ經費流用許容ノ限度ノ決定ニ關シ我カ大震災復舊費ノ如キ特殊ノ災害費ハ所謂國防費ト同一視シ得サルカ故ニ之ヲ公表中ニ國防費トシテ取扱フコトニハ敢テ反對セサルモ之ヲ制限額中ノ國防費トシテ取扱フコトニハ賛成シ得ストシテ右ニ付專門分科會ニ於テ現實ニ即スル適當ナル解決方法ヲ見出サンコトヲ希望シ置キタリ

尙又條約案中第三十三條中「器材ノ種類」トアリ我方トシテ殊ニ陸軍ニ於テ各種兵器別ニ依ル公表ヲ欲セス公表様式中ノ器材ノ分類L、M、M(a)Nニ依ル公表ヲ可ナリトシ但シ第三十三條ノ變更ヲ欲セサルヲ以テ國防費委員會ハ條約案第三十三條「器材ノ種類ニ依リ」トハ豫算專門家委員會起草ノ離形表中ノL、M、M(a)Nナリト解釋ストノ提案ヲ爲シ置キタリ

右ハ何レモ追テ專門分科會ニ於テ討議セラルヘシ

第二、議事順序

國防費委員會ハ其ノ議事順序ヲ定ムル爲第二回委員會ニ於テ一般委員會ノ附託事項ヲ議題トシテ討議シタルカ右ニ付波蘭委員ハ該事項中一、（第二十九條）二、（第三十三條）三、（第三十八條）ニ掲ケラレタルコトハ四、（豫算專門家委員會ノ報告）ニ包含セラレ居ルヲ以テ直ニ報告ヲ審議ノ範圍トシテ研究スヘキヲ主張シ獨逸委員ハ報告ヲ審議ノ基礎トスルコトニハ敢テ反對セサルカ右報告中貨幣購買價值變動問題ニ關スル專門家ノ意見ハ最近ノ事態ニハ適應セス又豫算制限ノ原則問題ハ今決定シ得サルカ故ニ差當リ公表問題ノミヲ審議スルコト可ナリト論シ英國委員ハ貨幣購買價值變動問題ハ豫算制限

問題ノ根本の先決問題トモ云フヘキモノナルヲ以テ先ツ經濟專門家ノ分科會ヲ組織シテ之ヲ研究セシムル必要アリト主張シタルカ日本、諾威、瑞典各委員等ハ波蘭說ヲ支持シ「ニュージーランド」委員ハ英國說ヲ支持シ佛國委員ハ折衷說ヲ述ヘ結局豫算專門家委員會ノ報告ヲ討議ノ範圍トシ各國ノ主張殊ニ英國ノ主張ヲ考慮シテ委員會幹部會ニ於テ議事順序ヲ作成スルコトニ決定シタリ

右決定ニヨリ委員會幹部會カ起草シ委員會カ採決シタル議事順序 (Cont. D./C. D./2) 左ノ如シ

(甲) 豫備の問題

- (一) 各國々防費額ノ統一の報道ノ必要ナルコト（報告第一章）
- (二) 國防費額ヲ基礎トシテ各國軍備力比較ノ不可能ナルコト（報告第二十四章）

(乙) 公表様式ノ形式及内容

以下記載ノ四項ニ包含スル諸問題中技術の性質ヲ有スルモノニ就テハ小數ノ專門家分科會ニ附議スヘキモ本委員會ニ於テ豫備のニ之カ意見ノ交換ヲ行フ右分科會ハ又各國政府ノ軍費現狀通報ヲ審査ス

(一) 「年次經費」ノ定義

(イ) 「經費」ノ定義（報告第五章）

(ロ) 整理期間（「エキゼルシス」）計算（報告第六章ノ内）

(ハ) 議會ノ協賛セル豫算ノ公表（報告第二十二章）

(二) 「國防費」ノ意義及範圍

(イ) 機密基金ト經費充當ノ變更（報告第三章ノ内）

蘇聯委員提案 (D.C.D. 99, P. 46)

(ロ) 總經費ト純經費（報告第七章）

- (ハ) 補助金貸付金及企業參加（報告第八章）
- (ニ) 軍備縮少ニヨル特別經費（報告第九章）
- (ホ) 豫算外經費（報告第十章）
- (ヘ) 附屬書案ノ定義ハ限定的ニ非ス（報告第十二章ノ内）
- (ト) 定額ノ繰越（報告第十六章）
- (チ) 公表様式附屬表C、D、E、F（報告第二十章ノ内）
- (三) 國防費ノ分類
 - (イ) 公表様式（報告第二章）
 - (ロ) 經費充當ノ變更（報告第三章ノ内）
 - (ハ) 公表様式各項目ノ内容及分類（報告第十一章）
 - (ニ) 附屬書ノ定義ハ限定的ニ非ス（報告第十二章ノ内）
 - (ホ) 經費ノ三軍別區分（報告第十三章）
 - (ヘ) 公表様式附屬表A、B（報告第二十章ノ内）
 - (四) 對照表例外事項（報告第十四章及第四章）
 - (丙) 公表ニ關スル問題
 - (一) 通報發送期限決算（報告第二十三章）
 - (二) 條約案第三十三條（報告第十九章）
 - (三) 國防ニ關スル法規ノ通告（報告第二十一章）
 - (丁) 制限額決定ニ關スル問題

- (一) 三軍別制限額間ノ融通（報告第十五章）
- (二) 甲年度ヨリ乙年度ニ經費流用ヲ許容スヘキ限度ノ決定（報告第十七章）
- (三) 貨幣購買價值ノ變動
 - (イ) 瑞典ノ提案
 - (ロ) 本問題研究ノ爲特別専門分科會設置ニ關スル英國ノ提案
 - (註)（報告第一章）トアルハ豫算専門委員會報告ヲ示ス以下同シ

尙右議事順序討議ニ於テ波蘭委員ノ主張ニヨリ議題中（甲）（ニ）（國防費額ヲ基礎トシテ各國軍備力比較ノ不可能ナルコト）ハ假ニ之ヲ當初ニ討議シ最後ニ再ヒ討議スルコトトナリ他方蘇聯委員ハ軍縮準備委員會ニ於ケル其主張タル軍事費ノ制限ハ人員及器材ノ直接縮少ニ相應スルモノタルベキコトノ見解ヲ留保シテ討議ニ參加スルモノナルコトヲ聲明シタリ

第三、議事經過要領

（甲）豫備的問題

- (一) 各國ノ國防費額ノ統一の報道ノ必要ナルコト（報告第一章）
- 佛國委員ハ國防費ノ公表若ハ制限ニ關シテ各國々防費ヲ統一アル形式ノ下ニ提示スルコトノ必要アルヲ力説シ
- 獨逸委員ハ佛國ノ說ニ賛成シ且統一セル形式ハ對照表其他ノ必要文書ニモ之ヲ及ホサザルベカラズト論シ左記趣旨ノ提案 (Conf. D./C. D./15) ヲ爲ス

「(一) 公表様式統一ノ原則ニ從ヒ對照表ノ形式ヲ統一スルコト

(二) 軍事費ニ關スル豫算及決算ノ形式ヲ統一スルコト

殊ニ豫算専門委員會報告第百七十八頁及第百七十九頁蘇聯提案ノ如ク各國軍費ハ總テ國家豫算ノ一章中ニ統一スルコトヲ必要ナリト認ム」

英國委員ハ統一セル形式ノモトニ國防費ヲ提示スルコトノ必要ナルハ佛獨委員ノ述ブルガ如クナルモ幾多ノ點ニ付テ專門分科會ノ研究ニ待ツベキモノ少ナカラズ獨逸委員ノ云フ各國ニ豫算ノ形式ヲ統一セントスルガ如キ革命の方法ヲ討議スルトキハ長期ニ亙ル委員會ノ事業ヲ益々長カラシムルコトナルヘク要ハ統一セル公表様式及對照表ト公證セラレタル決算ノ提出ニアリト述ブ

右ニ對シ議長ハ英國委員ノ言ハ獨逸ノ提案ニ對スルモノト看ラルルモ獨逸提案ハ追テ審議セラルルモノニシテ玆ニハ一般原則ノミ論議スベキナリト云ヒ本議題ノ原則ニ就テハ滿場異議ナキモノト認メテ可決ス

(二) 國防費額ヲ基礎トシテ各國軍備力比較ノ不可能ナルコト(報告第二十四章)

佛國委員ハ本問題決定ノ及ホス影響ノ重要ナルニ鑑ミ充分討議ヲ盡スヘキヲ希望シ各國ノ軍事諸經費ハ各國特殊ノ經濟財政事情又ハ軍事組織ニ依リテ異リ之ヲ以テ各國ノ軍備力ヲ比較スルノ根據トナシ得サルコトヲ實例ヲ引キテ詳細ニ說明シ各國ガ毎年國防費ノ公表様式ヲ提出セバ數年後ニハ其國ニ對シテ國防費ノ總額又ハ各種類ノ額ヲ比較シテ經費ノ動向ヲ知リ得ベク從テ其ノ一國ノ軍備ノ進化ヲ察知シ得ベシト云ヒ

獨逸委員ハ佛國委員ノ說及報告第二十四章ノ見解ニ賛成シ國防機關ノ必要トスル物品又ハ給付ニシテ金錢ヲ以テ支拂ハレサルモノアリ豫算上ニ載セラレサルモノモ少ナカラサルヲ以テ

「此種ノ給付ヲ受ケ又ハ物品ヲ使用スル國ハ公表様式ノ附屬表ニ之ヲ明ニスヘク該表ノ様式内容ハ專門委員會ニ依テ決定セラルベシ」

トノ提案 (Conf. D/C. D/18) ヲ出シ

議長ハ獨逸提案ハ然ルベキ時ニ考慮セラルベシト云フ

次テ波蘭委員ヨリ本問題ハ議事順序討議ノ際ノ決定ニ從ヒ報告ノ他ノ問題審議終了ノ後ニ最終的決定ヲ爲スヘク今ハ假ニ本原則ヲ討議スルニ止ムヘキナリト注意ス

伊國委員ヨリ本問題ノ原則ノ正當ナルハ佛國委員ノ説明ニ依テ明ナリ唯稍トモスレバ軍費ヲ各國軍備ノ比較ニ用フル傾向アルヲ以テ本問題ノ原則ハ之ヲ徹底セシムルヲ可トスヘシト云ヒ

「國防費委員會ハ今ヨリ本原則ヲ全會一致承認シ國際聯盟ノ總テノ統計刊行物(殊ニ磅、弗、法等ニテ表ハサル各國軍費ニ關スル統計年鑑)ニ付テ此ノ原則ヲ明瞭ニセンコトヲ希望ス」

ル旨ノ提案 (Conf. D/C. D/16) ヲナス

瑞典委員ハ本原則ハ委員會ノ事業ノ出發點トナルヘキモノニシテ最後ノ結論トナルベキモノニ非ズ必要アラバ本問題ヲ後ニ再ヒ討議スルコトヲ得ルモノトシテ今日ヨリ全會一致ヲ以テ之ヲ認メンコトヲ希望シ

獨逸委員ハ伊太利案ニ賛成シタルモ

米國委員ハ本原則ハ既ニ決定的ノモノナリト思考ス

米國政府ハ量の軍備競争ガ止ミタルトキ質的軍備競争ヲ防止スル爲直接制限方法ノ補足手段トシテ豫算制限ノ考ヘヲ受諾シタルモノニシテ若シ各國ノ經費ヲ直接比較セントスルガ如キ傾向アルニ於テハ此種縮少ノ方法ニ賛成スルヲ得ザルベシト述ブ

波蘭委員ハ今内容ニ立入ツテ論議セザルカ國防費ヲ基礎トシテ各國ノ總軍備力ヲ比較セントスルコトハ困難ナラムモ或點ニ就テ之ヲ比較スルコトハ不可能ニ非ズ豫算ハ一國軍備ノ鏡トモ云フコトヲ得ベシト述ベ伊太利案ノ趣旨ニ反對セザル旨ヲ附言ス

白耳義委員ハ本原則ヲ認メ伊太利案ニ賛ス

右討議ノ結果議長ハ本原則ニ付テ波蘭ヲ除キ皆賛成ナリト認メ一先ツ討議終了ヲ宣シ其ノ後伊太利案ノ討議ヲナシタル處蘇聯委員ハ「磅、弗、法等ニテ現ハサル統計表」ト云フ代リニ唯一ノ貨幣ニテ表ハサルコトヲ明ニスルニ止ムベシト云ヒ

波蘭委員ハ伊太利案ガ本問題ヲ決定シタルガ如キ觀ヲ與フル點ニ反對シ副議長「ラドレスコ」ハ聯盟トアルハ國際機關トスベシト云ヒ結局蘇、波、伊、羅、瑞典、白、英、起草分科會ニ附託セラレ同分科會ニ於テ討議ノ結果「國防費委員會ハ若シ或年度ノ國防費ヲ基礎トシテノ各國ノ軍備力比較ニ關スル問題ヲ審査ノ結果其比較不可能ナルコト明瞭タルニ於テハ各國ノ軍費ニ關スル統計ノ國際的刊行物ニハ此ノ意義ヲ明瞭ナラシムルヲ要ストノ意見ヲ表明ス」

トノ修正案 (Conf. D/C. D/19) ヲ提出シタルヲ以テ右ニ付討議シタル處所用ノ爲右起草分科會ニ缺席セシ蘇聯委員ハ本修正ニヨリ決議ノ價值ヲ減却シタルカ故ニ賛成シ得スト云ヒ伊、蘇、諾、波、印、芬、洪各委員論議ノ末本案ノ決定ヲ延期スルコトニ決ス

(乙) 公表様式ノ形式及内容

(1) 「年次經費」ノ定義

(イ) 「經費」ノ定義 (報告第五章)

報告第五章ノ結論タル軍縮條約案ニ云フ經費ナル語ハ現實支拂又ハ事實上之ニ相當スル支拂手形ノ發行ヲ意味スルモノナルコトニ付テハ委員會ニ何等意義無カリシモ議長ハ如何ナル國カ支拂手形ノ發行カ現實支拂ニ相當スル制度ヲ有スルヤヲ専門分科會ヲシテ研究セシムルヲ要スヘシト提案シ

佛國委員ハ専門分科會ハ各國ノ決算書ノ審査ヲ爲スカ故ニ右問題ハ當然之ヲ審査シ或國ノ決算制度ニ於テ支拂命令カ現實支拂ニ相當スルモノト看做サル、ヤ否ヤヲ檢討スヘキカ各國ノ文書審査完了前ニ此カ報告ヲ爲スコトハ困難ナルヘシ故ニ或國ノ會計制度カ支拂命令ヲ現實支拂同様ニ記入スルモノニ就テ支拂命令ニ關スル金額ハ會計検査院ノ如キ獨立審査機關ニ依リテ證明セラレタルモノナリヤ否ヤ問題ニ注意ヲ爲サハ足ルヘシト述ヘ

議長ハ本問題ニ付専門分科會ハ報告提出ノ時ヲ自由ニ決定スヘシト云ヒ

波蘭委員ハ報告ノ提議及本問題ヲ専門分科會ニ附託スルコトニ賛成シ本問題ハ議長提案ノ如ク専門分科會ニ附託セラル

(ロ) 整理期間 (「エキゼルシス」) 計算書 (報告第六章後段) 議長ヨリ多數國家ニ於テ或豫算年度ニ補足期間ヲ有シ該豫算年度ニ約束セル經費ノ支拂ヲ其期間内ニ行ヒ其支拂ヲ該豫算年度ノ分トスル制度ヲ有ス右ニ對シ報告第六章ハ能フ限リ各國ノ制度ヲ統一セルカ爲各國カ右補足ノ整理期間ヲ短縮セント努ムルコト竝ニ若シ之カ困難ナルニ於テハ條約適用ノ爲豫算年度ノ十二ヶ月間ノ現實支拂ノミ記入セル別箇ノ計算書ヲ作成シ決算書ト同様證明公表スルヲ可トスル旨ヲ提言シ居ルカ本問題ノ技術的問題ナルニ鑑ミ専門分科會ニテ之ヲ審議セシムヘキヲ提議シ

佛國委員ハ之ニ賛成シ報告ニ云フ別箇ノ補足の計算書ハ豫算制限成立ノ場合一年間ノ現實支拂狀態ヲ速カニ周知セシメテ人心ヲ安心セシムルカ爲ノミノモノナレハ決算書其ノモノ、價值ヲ減少スルモノニ非サルコトヲ注意スルヲ要スト云ヒ

獨逸委員ハ補足期間ハ之ヲ廢止シ英國ノ如クナスヲ可ナリトシ本問題ハ事ハ技術的ナルモ重要ナル政治的問題ヲ包藏シ得ルモノナリト述ヘ

波蘭委員ハ報告ノ提言ニハ賛成シ得ルカ補足期間ノ短縮ニ付考慮スヘキナリト云ヒ本問題ハ専門分科會ニ附託セラル

(ハ) 議會協賛豫算ノ公表 (報告第二十二章)

伊、波、蘇、獨、佛各委員何レモ報告ノ趣旨ニ賛成シ條約上ヨリハ支拂額ヲ制限スルモノナルヲ以テ豫算其ノモノハ意味ナシトスルモ各國ヲシテ其ノ額カ制限額内ニ在ルコトヲ公表セシムルコトハ必要ナリト認メ蘇聯委員ハ豫算専門家委員會ノ一九二七年ノ報告 (Document C.P. D/90) ニ在ル提案即チ

(一) 豫算ハ其協賛後能フ限リ速ニ經費監督機關ニ通告スルコト

(一) 豫算年度中ノ現實ノ支拂ニ關スル情報ヲ能フ限リ速ニ公表スルコト右ハ正規ノ期間ニ之ヲ爲スモノトシ充分問題審議ノ後之ヲ決定スヘシ
トノ方法ヲ採用スヘシト云ヒ

佛國委員ハ左ノ提案 (Conf. D/C. D/f) ヲ爲シ專門分科會ニ附託センコトヲ求ム

「條約案第三十八條ニ追加

各締約國ハ豫算年度開始後三ヶ月以内ニ條約案ノ意義ニ於テ國防費所管省ノ豫算明細書ヲ國際聯盟事務總長ニ送付スルモノトス

前項ノ期間内ニ豫算成立セサルトキハ之カ成立後發送スヘキモノナリト雖モ其ノ豫算案ヲ前記期間内ニ送付スヘキモノトス

更ニ國防費關係省所管經費ニ變更(追加定額繰越各種收入等)アリタルトキハ其ノ變更ノ生シタル後三ヶ月以内ニ通告スルモノトス」

右佛國提案ハ本問題ト共ニ專門分科會ニ附託セラル

(二) 國防費ノ意義及範圍

(イ) 機密基金ト經費充當ノ變更(報告第三章ノ内)

議長ヨリ專門家報告ノ提案ハ軍縮準備委員會ニ於ケル蘇聯ノ提案(國家豫算中ヨリ機密基金ノ排除、軍備維持ニ要スル費用ヲ國家豫算ノ一章中ニ統一セシムルコト)ヲ包括セルモノト思ハル、カ蘇聯委員ハ之ヲ以テ満足スルヤヲ尋ネ蘇聯委員ハ報告ハ蘇聯提案ヲ註釋シテ「右提案ハ豫算中ニ正確ニ國防ノ目的ヲ示サ、ル項目ニ國防費ヲ含マシムルコトヲ得サラシメントスルモノナリ」ト在ルモ右ハ蘇聯ノ見解ヲ正解セス蘇聯ハ豫算ニハ總テノ經費ヲ含ミ隠レタル形式ノ下ニ特別費ニ充テラル、機密基金有ルヘカラスト思考スルモノナリ報告カ「條約中ニハ締約國カ公表様式中ニ其

ノ眞ノ充當ニ從ヒテ全軍事實ヲ組ミ入ル、コトヲ約スル旨ノ根本的條項ヲ入ルルヲ要ス」ト提議セルニハ賛成スルモ「全軍費」ニハ「例外ナク」ヲ附加スヘシト答ヘ

議長ハ更ニ獨逸提案 (Conf. D/C. D/f) ノ末項ヲモ同時ニ討議セラルヘキヲ提議ス

佛國委員ハ蘇聯委員ノ云フ「例外ナク」ヲ入ルルコトニハ賛成シ國家單一豫算ニ各縣各町村等ノ豫算ニ含マルル軍費ヲ總テ載セルコトハ望マシキコトナルモ傳統及行政上ノ理由ニ依リ困難ナルモノアルヘク又經濟ノ見地ヨリ國防費ニシテ國防省以外ノ省ノ豫算ニ入ルルヲ便宜トスルモノアリ他方又國防費ニ非スシテ國防省ノ豫算ニ入レルモノアルコトヲモ注意スルヲ要スト云ヒ折衷案トシテ專門分科會ヲシテ各國ヨリ軍事豫算ニ含マレサル國防費ノ表ト國防費ニ非スシテ豫算ニ含マレタル經費ノ表ヲ得ラレサルヤヲ研究セシムヘク各國カ右表ヲ豫算ト同時ニ提出セハ國防費カ豫算ノ何レニ在ルモ之ヲ審理シ得ヘシト云ヒ專門分科會カ各國文書ヲ審議シツツ蘇聯提案ト此ノ折衷案ヲ考慮センコトヲ提議シ且其提案ニ豫算外ノ資源ヨリ來ル資金ニシテ國防費ニ充テラルルモノニ付各國政府ハ之ヲ公表セサルヘカラスト附加ス

英國委員ハ國防費ヲ例外ナク公表様式ニ入ルルコトニハ賛成ナルカ豫算作成ノ形式ハ「アカデミック」問題ナリ之ニ關スル技術的問題カ專門分科會ニテ審議セラルルコトニハ反對セサルモ報告第七頁ニ云ヘルカ如ク各國豫算ノ各章ニアル經費ノ分類ハ多クノ政治的考慮ヲ伴フヘキモノナルヲ以テ本問題ヲ專門分科會ニ於テ取扱フコトハ困難ナルヘシト云ヒ此ノ點ニ付テ留保ヲ爲ス

結局議長ノ提案ニ依リ本問題ハ之ヲ獨逸提案二項及末項ト共ニ專門分科會ニ附託シ同分科會ヲシテ案文ヲ作ラシムルコトニ決定ス

(ロ) 總經費ト純經費(報告第七章)

本問題ニ關シ日本委員ハ左記要領ノ主張ヲナシ本問題ト共ニ專門分科會ニ附託セラル

報告第七章ニ關シ豫算專門家委員會ニ於テハ緊急ノ場合軍隊カ民衆ニ救助ヲ與ヘ之カ爲經費ヲ要スルコトアルニ注意シ此ノ性質ノ經費ハ國防費ニ算入スヘカラサルモノト認メ條約附屬書案第五項ニ次ノ如ク規定セリ

「軍隊カ特別ノ事態ニ際シ民衆救助ノ爲メ要シタル經費ハ受益者カ之ヲ支拂フト否トニ關セス雛形表ヨリ除外スヘキモノナリ」

日本委員ハ此ノ解決方法ヲ以テ經費制限ノ見地ヨリ緊急ノ場合ニ處スル適當ナル手段ト思考ス然レトモ同様ノ觀念ニ於テ或ハ特殊ノ地理的状況ニ依リ或ハ民衆ノ生命財産ヲ脅威スル動亂ニ依リ屢々災害又ハ重大ナル事變ノ發生スルヲ認メサルヲ得ス此ノ場合政府ハ其權利義務ノ行使上民衆ノ生命財産保護ニ任セサルヘカラス從テ此ノ場合ニ要スル經費ハ同様ニ國防費ヲ構成セサルコト勿論ナリ此ノ見地ニ於テ日本委員ハ附屬書案第五項ヲ以テ不充分ナリト認メ追テ同項ノ適當ナル修正ヲ提議スヘシ

其ノ後次回會議ニ於テ支那全權團ヨリ本問題ニ關スル覺書 (Conf. D./C. D./20) ヲ提出シ

豫算專門家委員會報告第七章末項ハ國內ニ於テ人民ニ與ヘラルル救助ノミヲ意味スルモノト解スルコトヲ留保シテ第七章ニ賛成スル旨ヲ主張シ日本ノ主張ニ反對ヲ表示シタルカ議長ノ提議ニ依リ專門分科會ニ附託セラル

(ハ) 補助金貸付金及企業參加 (報告第八章)

佛國委員ハ國家其他ノ公共團體法人ノ私的企業參加ハ益々増加スル傾向アリ其ノ參加ノ形式ハ多樣ニシテ軍需企業補助ノ手段ハ多種巧妙ナルコトヲ注意スルヲ要ス依テ斯ノ如キ行動ハ國家ノ計算書ニ載ル總テノ經費ト同様ニ能フ限リ監督シ且審査セラルルヲ要スヘシト云ヒ本問題ヲ專門分科會ニ附託シテ充分研究セシメ必要アラハ適當ナル專門家ヲ加ヘテ審議セシムヘキヲ提議ス

蘇聯委員ハ本問題ニ關スル報告ノ方法ハ不満足ニシテ國家豫算ノ企業又ハ特別會計ノ企業ト同様ニ私軍需企業ニ對スル資本モ考慮ニ入ルルコトヲ要ス軍需工業ニ充テラルル資本ハ其出所ノ如何ヲ問ハス表ヲ作成シテ制限スルヲ可トス

ヘク雛形表第四章中又ハ附屬表中ニ之ヲ記入セシムヘシト云ヒ且私軍需工業ニ對スル投資金ニ付キ本會議參加各國カ公表様式作成ト同期間ノ右投資金ヲ報告セムコトヲ求メタルカ議長ハ蘇聯委員ノ意見ハ新原則ニ關スルヲ以テ書面ニ依ル提案ヲ爲サンコトヲ要求シ蘇聯委員ハ左記要領ノ提案ヲ爲ス

「軍需品ノ大部分ハ國立兵器工場ニ依ラスシテ政府カ參加セサル私立會社ニ依リテ軍隊ニ供給セラルルコト及軍需品製造ノ設備ヲ有スル私企業ハ戰時軍事的ニ利用セラレ且國立兵器工場ト同様ノ生産品ヲ生スルコト並私有資本ニ依ル軍備力ノ増大ヲ制限スルコトハ軍縮ノ爲望マシキコトナルヲ以テ國防費委員會ハ左記事項ヲ必要ト認ム

(イ) 軍需工業又ハ補助工業ニ投資シタル私有資本ハ制限且縮減スヘキモノナルコト

(ロ) 本會議ニ參加セル政府ハ本會議ニ提出セル公表様式作製ト同期間ノ軍需工業及補助工業ニ投資シタル私有資本ノ明細表ヲ提出スルコト

右蘇聯提案ニ付テハ佛獨羅日各委員ハ何レモ其ノ原則ヲ決定スルコトハ本委員會ノ權限ニ屬セサルモノト認メ蘇國委員又固執セス結局會議幹部會ニ送付シ何レノ委員會ニ於テ之ヲ審議スヘキヤノ決定ヲ求ムルコトナリ六月十四日幹部會ハ之ヲ一般委員會會議題Bノ6 (武器賣買及製造) ト同時ニ討議スルコトニ決定セリ

獨逸委員ハ報告第八章ニ不満足ノ意ヲ表シ佛國委員ノ提案ニ賛成シタルカ本問題ハ全部專門分科會ニ附託セラル

(ニ) 軍備縮少ニ依ル特別經費 (報告第九章)

佛國委員ハ報告ノ趣旨ニ賛シ唯條約締結ニ依リ契約解除ヲ生シタル場合ノ補償金ハ之ヲ國防費ト見ル能ハサルコトニ注意シ右意見ト共ニ本問題ハ專門分科會ニ附託セラル

(ホ) 豫算外經費 (報告第十章)

議長ヨリ本問題ニ關スル實際上ノ困難ニ付テ專門分科會ヲシテ之ヲ審議セシムヘキコトヲ提議シ獨逸提案 (Conf. D./C. D./18) (國防機關ノ必要トスル或種生産品及役務ヲ無償ニテ使用スル國家ハ雛形表附屬表ニ之ヲ記載スヘク其形

式及表ノ詳細ハ專門分科會ニ於テ決定セラルヘシハ本問題ト密接ノ關係アリトテ獨逸委員ノ説明ヲ求メ獨逸委員ハ獨逸提案ハ常ニ公表様式ニ記載セラルヘキ所謂豫算外ノ經費ヲ目的トセス無償ノ役務ニ付テ何等云フヘキ處無キ報告ノ缺陷ヲ補ハントスルモノナリト説明シ英、羅、波各委員右提案ヲ專門分科會ニ附託研究セシムルコトヲ必要ナリトシ本問題ト共ニ專門分科會ニ附託セラル

(ハ) 附屬書案ノ定義ハ限定的ニ非ス(報告第十二章ノ内)佛國委員ハ本問題ハ自明ノ理ナレハ委員會カ本原則ヲ直ニ採決センコトヲ提議シ異議無ク報告ノ原則ヲ採用シ其起草ニ付テ之ヲ專門分科會ニ附託ス

(ト) 定額ノ繰越(報告第十六章)

洪牙利委員ハ定額ノ繰越ニ付報告ハ何等規定スル處無キヲ以テ專門分科會カ定額ノ見地ヨリ豫算ノ制限及公表ニ關シ各國ニ平等ノ條件カ保證セラルル共通ノ規定ヲ定メ得サルヤニ付研究スルヲ要スト述フ佛國委員ハ此ノ點ニ關シ洪牙利提案ニ贊シ技術的ニ一ノ形式ヲ與フル必要アリト云ヒ又報告第十六章ニ云フ繰越問題其レ自身ハ實際支拂ヲ基礎トスル制限制度中ニ何等ノ役目ヲ爲ササルモノナリトノ否定的結論ヲ受諾センコトヲ提議シ

英、希、獨委員等論議ノ後本問題ハ之ヲ專門分科會ニ附託ス

(チ) 公表様式附屬表 C、D、E、F (報告第二十章ノ内)

佛國委員ハ特ニ附屬表 C ニ關シ專門家委員會ノ考ヘハ一度ニ一豫算中ニ協賛セラレタル總括定額ニシテ數年間ニ互リテ使用シ得ルモノヲ記載セシメントスルニ在リタルモ各國ノ定額消費ノ觀念ハ國內法ニ依テ異ニシ居ルヲ以テ C ハ一層明白ニ規定スル要アリト注意シ

獨逸委員亦 C ハ公表ノ目的ニ充分副ヒ得スト云ヒ本問題ハ總テ是等ノ「オブザーヴェーション」ヲ考慮ニ入レ專門分科會ニ於テ研究スルコトニ決定ス

(三) 國防費ノ分類

(イ) 公表様式(報告第二章)

本問題ハ專門分科會ニ附託セラル

(ロ) 經費充當ノ變更(報告第三章ノ内)

本問題ハ專門分科會ニ附託セラル

(ハ) 公表様式各項目ノ内容及分類(報告第一章)

印度委員ヨリ本問題ニ付專門分科會ノ執ルヘキ結論ヲ邪魔スル意ニハ非サルモ各國ノ會計制度ノ差異ヨリ來ル困難ニ鑑ミ公表様式ノ項目ハ能フ限リ少ナカラシムルヲ可トスト主張シ日英波各委員之ニ贊シ羅佛委員ハ印度委員ノ希望ニ賛成シ同等ニ公表様式各項目ハ充分正確明瞭ニ分類スルヲ要スト述ヘ本問題ハ專門分科會ニ附託セラル

(ニ) 附屬書案ノ定義ハ限定的ニ非ス(報告第十二章ノ内)

議長ハ國防費ノ意義及範圍ニ關シテ既ニ本原則ハ認メラレ其條文ノ起草ヲ專門分科會ニ附託シタルカ右ハ亦分類問題ニモ及フモノナルヲ以テ今本問題ノ討議ヲ爲スヲ必要トセサルヘシト述ヘ異議無ク可決ス

(ホ) 經費ノ三軍別區分(報告第十三章)

本問題ニ付テハ本會議ノ一般討議ノ際諾威ノ爲シタル提案アリ (Conf. D. 99 p. 51) 同案ハ三軍別ニ依ル經費制限ヲ可トスルモノナリ

「ユーゴースラヴィヤ」委員ハ三軍別ニ依ル經費區分ノ同國ニトリ困難ナル事情ヲ述ヘ波蘭委員亦經費ノ三軍別ハ兵器ヲ自國ニ於テ生産セス國防費年次經費ノ平均セサル國ニ於テハ殊ニ困難ニシテ同國ハ三軍別ニ依ル經費ノ制限ヲ受諾シ得サル旨ヲ述フ

芬蘭委員ハ本問題ハ經費ノ公表ノミヲ目的トスル制限ヲモ目的トスルトニ依リテ重要性ヲ異ニシ若シ經費制限ヲ目的トセハ兵器ヲ外國ニ毎年注文セス數年毎ニ多量注文ヲ爲ス國ニアリテハ是甚タ困難ナリ從テ此制限ヲ行フトセハ國

防費カ一定ノ金額ヲ超エサル小國ヲ例外トスルヲ要スト説キ「エストニア」委員亦一ノ國防省ノミ有スル同國トシテハ三軍別ニ依ル經費ノ制限ハ困難ナリト云ヒ芬蘭委員ノ提議ニ賛ス

右ニ對シテ瑞典委員ハ報告ハ三軍別經費區分ヲ認メタルノミナラス兵器ノ種類別ノ可能ヲモ認メタリ此ノ點ニ關シテハ空軍器材ニ關スル瑞典ノ提案アリ右提案ハ本委員會ニ送付セラレス玆ニ之カ論議セラルコトヲ欲スルモノニ非サルモ專門分科會カ兵器ノ種類別ニ關スル報告ノ結論ヲ研究シ之ニ賛成シ得サルヤヲ表明センコトヲ希望ス

眞ニ公表様式ヲシテ條約ノ目的ノ爲ノ實際的手段ヲシメント欲セハ三軍別ヲ必要トスト主張シタルカ獨逸委員ハ三軍別ハ不可能ナリト思考ス本問題ニ付テハ政治的の方面ヲモ考慮セサルヘカラス三軍別カ果シテ不可能ナルコト明トナラハ條約案第十條及第二十四條陸海軍器材ノ豫算制限ハ困難トナルヘシト説キ

「チッコ」委員モ三軍別ノ會計上困難ナルヲ述ヘ日本委員ハ三軍別ニ依ル經費區分ハ獨立セル空軍省ヲ有セス空軍カ陸海軍ト一體ヲ爲シ居レル日本トシテハ不可能ナリトテ之ニ反對ス

右多數ノ反對説ニ對シ佛國委員ハ專門家委員會ハ三軍別ニハ困難アル國アルモ必スシモ不可能ニ非スト認メタルヲ以テ專門委員會ハ公表ノ見地ヨリ各國カ如何ニシテ三軍別ヲ行ヘルヤ如何ナル程度ニ洩レ無ク區別シ得タルヤヲ審議シ後ニ一般委員會ニ於テ問題ノ政治的の方面ヲ討議スル土臺ヲ作ランコトヲ提議シ芬蘭ノ意見ハ小國ヲノミ目的トセルモ一層大ナル國ノ經驗スル困難ニモ適用シ得ルモノナリト云フ

波蘭委員ハ三軍別ニ反對スルコト依然タルモ佛國委員提議ニ賛シ專門分科會ヲシテ公表ニ關シ如何ナル困難アリヤ如何ニシテ之ヲ克服シ得ルヤヲ研究セシムヘク同分科會ノ意見ハ三軍別ノ能否ニ關スル一般の決定ニ有效ナルヘシト述ヘ

伊太利委員ハ三軍別不可能説多キモ專門分科會カ本問題ヲ研究スルコト必要ニシテ僅カニ數ヶ國ノミ文書ヲ提出セル

今日決定ヲナスハ尙早ナリト云ヒ瑞典委員ハ本問題ヲ專門分科會ニ附託スルコトニ異議ヲ稱ヘスト云ヒ英國委員モ之ニ賛成シ專門分科會ハ本問題審議ニ際シ公表様式カ單ニ公表ノ目的ニ對シテ實用的の方法ナリヤ否ヤヲ檢討スルニ止マリ制限ノ問題ハ之ヲ避クヘキヤヲ尋ネ

副議長（專門分科會議長）ハ本問題ノ政治的の方面ハ國防費委員會ノ決スヘキ問題ニ非ス委員會ハ其ノ技術的の方面ヲ研究スヘキモノナルカ專門分科會ハ特ニ本問題ヲ實際の見地ニ於テ各國文書ヲ審查シ居レルヲ以テ同分科會ガ其ノ審査ヲ終ヘ報告ニ三軍別ノ可能ナルヤ否ヤヲ明ニシタル後本問題ヲ決スヘキナリト云フ

獨逸委員ハ英國委員ノ質問ニ答フルモノトシテ專門分科會ハ公表ト制限トノ見地ヨリ研究スヘキモノト思考スト云フ以上討議ノ後次回會議ニ於テ芬蘭委員ハ曩ノ主張ニ基キ左ノ趣旨ノ提案ヲナス（Conf. D./C. D./23）ヲナス

「財力微弱ナル國ニ於テハ經濟的の見地ヨリ軍事行政ヲ一ニシ國防費ヲ有效ニ使用シ特ニ軍需工業ノ發達セサル國ニ於テハ間歇的ニ兵器ノ注文ヲナササルヘカラサルヲ以テ三軍別ニ依ル經費制限ノ場合ニ於テハ一ヶ年ノ總國防費カ……………百萬法ヲ超エサル國ハ三軍別ニ依ル經費ノ制限又ハ縮少ヨリ除外セラルルモノトス」

次テ波蘭委員ヨリ左ノ趣旨ノ提案（Conf. D./C. D./24）ヲナス

「最近ノ歴史的事件ニ依リ國防ノ種々ナル方面ヲ發達セシメ又ハ調和セシムルノ時期及可能性ヲ有セサリシ國家トシテハ或種ノ軍備ニ其經費ヲ集中スルノ必要アルヲ以テ委員會ハ專門分科會ニ斯ノ如キ狀態ニアル國ニ對シ三軍別ニ依ル經費制限ノ實現ニ伴ヒ生スル實際的困難ヲ研究センコトヲ求ム」

右ニ對シ佛國委員ハ芬蘭案及其補足的提案タル波蘭案ノ形式ハ三軍別制限ノ原則ノ障害トナル技術的困難ヲ除クヘキモノナルヤ否ヤニ付專門分科會カ研究センコトヲ希望シ葡萄牙委員ハ芬蘭案ニ賛成シ

英國委員ハ經費三軍別ノ制度ニハ困難アリト雖モ豫算制度ヲ異ニセル各國ノ專門家ハ大體之ヲ可能ナリト認メ且總括制限制度ノミニ依レハ一種ノ軍備ニ全部ヲ用ユルカ如キ事ヲ生スル危險アルヲ認メタルコトヲ注意シ專門分科會ニハ

芬蘭案ノ如キ指針ヲ與フルコトナク報告第十三章ヲ芬蘭及波蘭兩案ト共ニ同分科會ニ附託シ技術的見地ヨリ困難ヲ除去シ得サルヤヲ研究セシムルコト可ナリト云ヒ

「ユーゴースラヴィア」委員ハ波蘭案ニ贊シ

蘇聯委員ハ兩提案殊ニ波蘭案ハ技術的見地ヲ逸脱シ政治的性質ヲ有シ軍備縮少ヲ目的トセスシテ軍備擴張ヲ目的トス依テ本委員會ニテハ本問題ヲ決定スルコトハ面白カラスト云ヒ

諾威委員ハ右兩案ニ反對シ芬蘭案ハ聯盟規約第八條ノ趣旨ノ如ク軍縮カ實際行ハル、時ニ於テハ之ヲ採用シ得ヘキモ現狀ヲ以テシテハ三軍別制限ヲ必要トス諾威ノ重キヲ置クハ空軍經費ノ制限ナリ本提案ハ之ヲ專門分科會ニ附託シテ充分研究セシムルヲ可トスヘク又波蘭案ハ軍備擴張ニ導ク虞アリ各軍備ヲ調和的ニ發達セシムルノ必要ヲ認メントスルカ形式ニハ賛成スル能ハスト述フ

議長ハ經費ノ總括制限三軍別制限ノ原則ヲ決スルハ一般委員會ノ決定スヘキ處ナルヲ以テ三軍別問題ハ之ヲ專門分科會ニテ技術的研究ヲ爲スヘク之ニ必要ナル討議ハ既ニ盡サレタルモノト認ムト云ヒタルモ支那委員ハ芬蘭案ニ賛成シ諾威委員ノ說ヲ排シ軍備カ必要ナル程度ニ發達セサル國カ軍縮會議ニ參加セルノ事實ヲ以テ其ノ發達ヲナシ得スト云フカ如キコトアルヘカラス支那委員ハ直接制限カ經費制限ヨリモ有效ナルヲ信スルモノニシテ直接制限ハナシ得ルモ財政的資源ヲ當初ノ目的ヨリ以外ノモノニ利用スルコトヲ各國ニ禁スルコトハ不可能ナリ三軍別ハ公表ノ目的ニ非サレハ不可能ナリト云ヒ

波斯委員ハ芬蘭及波蘭案ニ贊シ三軍別ハ公表ノ點ヨリ云フモ困難ナリト述ヘ

波蘭委員ハ諾威委員ニ答ヘテ

「國防ノ種々ナル方面ノ發達及調和」ト云フハ過去ヲ云フモノナルコトハ波蘭提案ノ書振リヲ見レハ明カニシテ此ノ言葉ヨリ波蘭カ軍備ノ各方面ヲ擴張セントスルノ意思アルモノト論斷スヘカラス唯々欠陥ヲ補足セントスルノミ若シ三

軍別ニ依ル經費制限ヲ行フモノトセハ此ノ點ニ付或ル自由ヲ必要トスヘキヲ以テ天井ヲ高クシ總括制限ノミノトキヨリ總括制限額カ大トナルカ如キコトヲ要求スヘク右ハ避ケ度キヲ以テ此ノ提案ヲ爲シタル次第ナリト説明ス芬蘭委員モ諾威委員ニ答ヘ三軍別ニ依ラス自由ニ經費ヲ使用シ得ル國ハ芬蘭提案ニ依レハ大軍備ヲ有セサル小國ノミニシテ之ニ依リテ軍備ノ均衡ヲ破ルカ如キ虞ナシト云フ

波蘭委員ハ兩提案ニ付其ノ技術的方面ハ專門分科會ニ附託研究セシメ同時ニ政治的方面決定ノ爲兩提案ヲ一般委員會ニ送付スルコトヲ提議シタルモ

議長ハ之ニ反對シ兩提案ヲ一般委員會ニ送付スルハ其ノ時期ニ非ス專門分科會カ三軍別問題ヲ技術的方面ノミヨリ研究シ三軍別經費制限ノ可能ナリヤ否ヤヲ檢討スルト共ニ兩提案ノ希望スル點ニ技術的ニ満足ヲ與ヘ得サルヤ否ヤヲ檢討スヘキヲ提議シ其通リ決定ス

(一) 公表様式附屬表A、B、(報告第二十章ノ内)

本問題ハ專門分科會ニ附託セラル

(四) 對照表 例外事項(報告第十四章及第四章)

公表様式ノ形式統一ニ關シテ獨逸ノ提案(Conf. D./C. D./15)アリタルハ既述ノ通りナリ
副議長(專門分科會議長)ハ對照表カ公表様式審査ニ根本的必要アル所以ヲ述ベ獨逸提案ハ專門分科會ニ附託セラルヘク各國ノ對照表審査ノ後統一ノ形式ヲ選定スルコト然ルヘシト云ヒ瑞典委員佛國委員亦獨逸提案ニ賛成ス
本問題ハ獨逸提案ト共ニ專門分科會ニ附託セラル

(丙) 公表ニ關スル問題

(一) 公表様式發送期限決算(報告第二十三章)

日本委員ハ日本ハ整理期間トシテ豫算年度經過後一ヶ月間ヲ有ス此ノ期間ヲ更ニ短縮スルコト能ハス通報ノ送付期間ト

シテハ報告ノ通年度開始後二十六ヶ月ヲ受諾スルコトヲ得ヘシ但シ豫算年度後長期ニ亙ル整理期間ヲ有スル國ニ對シテハ適當ノ方法ヲ考慮スルコト可ナルヘク專門分科會カ本問題ヲ研究センコトヲ望ムト述フ

洪牙利委員ハ通報ノ發送速カナルハ經費制限上重要ナルヲ以テ二十六ヶ月ノ期間ヲ更ニ短縮シ得サルヤ否ヤ研究スル必要アリ各國カ通報ヲ同時ニ發送スルコトセハ同時原則ハ遵守セラルヘク且又豫算年度補足期間モ同時原則ノ下ニ一定シ能フ限り短期間トナスヘキナリト主張シ本問題ハ之ヲ專門分科會ニ附託シ具體案ヲ作ラシムルコトヲ提議ス

佛國委員ハ洪牙利提案ノ前段ニ賛成ナルカ後段ニ付各國ニ豫算年度補足期間ノ短縮ヲ求メントセハ困難ナル問題ヲ生スヘク之ノ點ノ救済方法ハ佛國委員カ既ニ説キタル方法ニ見出し得ヘシト云ヒ

獨逸委員ハ洪牙利委員ノ説ニ賛成シ補足期間ノ全廢ヲ希望シ英國委員ハ會計檢査ノ必要モアリ發送期間二十六ヶ月ハ永シトセスト云ヒ波蘭委員ハ二十六ヶ月ノ期間ヲ短縮スルコトハ可ナリトスルモ行政官廳ハ其習慣ヲ速ニ變更シ難カルヘシト云ヒ結局本問題ハ洪牙利提案ト共ニ專門分科會ニ附託セラル

(二) 條約案第三十三條(報告第十九章)

日本委員ハ條約案第三十三條ニ「器材ノ種類ト稱スル公表様式ニ掲ゲラレタル項目即チL、M、M^(a)、N、ヲ意味スルモノト解シテ之ニ賛成スト云ヒ議長ノ求メニ應シ左ノ如キ提案 (Conf. D/C. D/27) ヲナス

「國防費委員會ハ條約案第三十三條「器材ノ種類ニ依リ」トハ豫算專門家委員會起草ノ公表様式中ノL、M、M^(a)、Nナリト解ス」

蘇聯委員ハ補助金貸付金及企業參加(報告第八章)ニ關シ爲シタル提案ニ照應シ通報中ニハ私企業ト國家企業ヲ問ハス一國內ニ於テ製造セラレタル兵器並ニ外國ノ注文ニテ又ハ單ニ輸出ノ爲製造セル兵器ヲモ記載セラルヘカラス且又條約案第三十三條ハ空軍器材ニモ及スヲ要ス蘇聯委員ハ器材ノ製造費ノミナラス數量ヲモ通報セシメントスル獨逸ノ軍縮準備委員會ニ於ケル提案 (C.P.D. 295a) ニ賛成スト云ヒ議長ノ求メニ應シ左ノ提案 (Conf. D/C. D/26) ヲナス

(一) 條約案第三十三條第一項ノ終リ海軍ノ次ニ空軍ヲ加フ

(二) 左ノ末項ヲ加フ

「公表ハ軍需品ノ生産品ノミナラス數量及種類ヲ包含スルモノトス」

洪牙利委員ハ一般委員會及陸軍委員會カ本問題ニ關スル根本問題ヲ決定スルニ非レハ第三十三條ヲ討議スルコト能ハスト云ヒ

佛國委員ハ專門委員會カ總テノ國ニ各種器材經費ノ年次計算ヲ供給セシムルコトハ不可能ナリト認メタル理由ヲ説明シ本問題ヲ專門分科會ニ附託スヘキヲ提議シ洪牙利委員之ニ賛成ス

副議長(專門分科會議長)ハ專門分科會カ本問題ノ研究ニ着手スル迄ニハ時アリ其ノ間他ノ委員會ハ之ニ關係スル問題ノ審議ヲ終了スヘク若シ之ヲ終了セサレハ技術的立場ニ於テ解決方法ヲ見出し得ヘシト云ヒ

英國委員ハ報告ノ結論ニ賛成シ右見解ハ實行可能ノ最大限ヲ示セルモノナルカ本問題ヲ專門分科會ニ附託スルコトニハ反對セスト述フ

本問題ハ日蘇兩提案ト共ニ專門分科會ニ附託セラル

(三) 國防ニ關スル法規ノ通告(報告第二十一章) 佛國委員ハ將來ノ制限條約ノ見地ヨリスレハ軍需企業ニ與ヘラルル便宜ノ問題即チ租税ノ免除ノ形式或ハ勞働法制又ハ商業等ニヨリ與ヘラルル便宜ハ兵器製造ヲ盛シニスル方法ナルカ右ハ研究スル價值アル問題ナルヲ以テ本問題ハ之ヲ專門分科會ニ附託シ明白ナル提案ヲ爲サシムルヲ可トスヘシト云ヒ

波蘭委員ハ本問題ニ付テハ國防ノ爲ノ國民ノ無償ノ勞働給付ヲ等閑ニスヘカラストテ佛國提案ニ賛成シ

副議長專門分科會長ハ本問題カ專門分科會ニ附託セラルルハ關稅勞働法制問題ニ關スル聯盟ノ諸機關ニ情報ヲ求ムルコトトナルヘシト云ヒ本問題ハ專門分科會ニ附託セラル

(丁) 制限額決定ニ關スル問題

(一) 三軍制限額間ノ融通(報告第十五章)

獨逸委員ハ曩ニ豫算制限問題ニ付テノ獨逸ノ聲明(Conf. D/79)中ニ金本位制カ最近屢々放棄セラレ貨幣購買價值ノ變動急激ナルヲ以テ豫算制限ハ軍縮ノ有效ナル方法タルコトヲ得ス現在ノ經濟上貨幣上ノ狀態ニ於テ豫算制限ヲ行フ時ハ絶エス例外ヲ必要トシ契約の軍縮ノ平靜ナル進行ヲ妨クヘク且又各國ニ於ケル貯藏器材ニ大ナル差異アルヲ以テ經費制限ヲ一律ニ爲ス時ハ非常ナル困難ヲ伴フヘシ

ト云ヘルヲ引用シ右留保ノ下ニ條約案第二十九條年次經費ノ總括制限ニ關スル問題ノ審議ニハ參加スヘキカ第十條及第二十四條陸海軍器材ノ豫算制限ニ就テハ技術上ヨリモ政治上ヨリモ討議セラルルヲ欲セスト云フ

洪牙利委員ハ獨逸委員ニ賛成シ

本問題ハ専門分科會ニ附託セラル

(二) 甲年度ヨリ乙年度ニ經費流用ヲ許容スヘキ限度ノ決定(報告第十七章)

日本委員ハ各年間經費流用ヲ考慮シテ専門家委員會カ提議セル案ハ例ヘハ大震災ノ如キ非常ノ場合之ニ應スルコト能ハサルヘシ現ニ大正十二年ノ關東大震災ニ於テハ國防關係ニ二億圓餘復舊費ヲ要シタル事實アリ此ノ非常費タル復舊費ノ如キハ之ヲ所謂國防費ト看做スコト能ハサルカ故ニ日本委員ハ之ヲ公表中ニ國防費トシテ取扱フコトニハ敢テ反對セサルモ之ヲ制限額中ノ國防費トシテ取扱フコトニハ反對ス現ニ華府條約及倫敦條約ハ災害ニヨル喪失軍艦ノ代艦建造ヲ許容シ居レリ依テ専門分科會カ現實ニ即シテ適當ナル解決案ヲ見出サンカ爲ニ本問題ヲ研究センコトヲ希望スト述ヘ

本問題ハ専門分科會ニ附託セラル

(三) 貨幣購買價值ノ變動(報告第十八章)

瑞典委員ハ其ノ提案(Conf. D/110)カ本委員會ノ議事日程トナレルニ満足ノ意ヲ表シ最近ノ貨幣問題ノ變遷ニ鑑ミ報告

ノ提案カ宜シキヤ否ヤハ問題トナリ得ルカ今尙報告ノ提案ヲ可ナリト信ス但同報告カ貨幣ノ購買價值變動ニ應スル經費ノ調整機關トシテ列國會議ヲ提議シ居レルハ良法ト思ハレス一層簡單ナル方法ヲ選ビ軍縮常設委員會ヲシテ之ニ當ラシムルコト可ナラスヤト思考セラルト述ヘ本問題ヲ専門分科會ニ附託スヘキヲ提議ス

英國委員ハ曩ニ本問題研究ノ爲特別委員會ノ設置ヲ提議シタルカ若シ瑞典委員提案ノ如ク専門分科會ニ附託セラル、ニ於テハ其ノ提案ヲ撤回スト述フ

佛國委員ハ本問題ニ關スル報告ノ字句作成後ノ情勢ノ變化ニ伴ヒ變更スルコト必要トナレルモ其結論ハ有效ナリ但シ經費制限ノ調整ヲ絶エス必要トスルカ如キ急激ニシテ屢々貨幣ノ購買價值變動ヲ生スルニ於テハ制限條約ハ締結シ得サルハ明ナルカ故ニ特ニ金貨本位ヲ放棄シタル國ニ付物價指數ニ現ハル内部ノ物價ノ變動ノ程度ヲ研究スル必要アルヘシ他方本問題ハ之ヲ經濟的ト行政的トノ兩方面ヨリ研究スル必要アリト云ヒ貨幣購買價值變動ニ影響スル幾多ノ問題ヲ舉ケタル後本問題ノ専門家ヲ加ヘテ専門分科會ヲシテ本問題ヲ充分ニ審議セシムルコトニ賛成ナリト述フ

芬蘭委員ハ本問題ニ關シテハ報告ノ提案ヨリ一層簡單迅速ナル調整方法ヲ研究スル必要アリト云ヒ

副議長(専門分科會議長)ハ本問題ヲ専門分科會ニ附託セラルレハ特別ノ専門家ヲ參加セシメテ其ノ協力ヲ求ムヘク同分科會ハ軍縮ノ目的ニ立チテ本問題ヲ研究シ明瞭ナル技術的報告ヲ提出スヘシト述フ

以上討議ノ後本問題ハ専門分科會ニ附託セラル

第三節 専門分科會

第一項 専門分科會ノ構成及其ノ任務

第一、構成及任務

三月十四日第三回國防費委員會ハ議長ノ提議ニ基キ各國政府提出ノ軍備現狀通報軍事費關係文書審査ノ爲分科會ヲ設置シ同分科會ヲシテ右通報審査ノ外國國防費委員會ヨリ附託スル技術的問題ヲ研究セシムルコトヲ決定シ同委員會幹部ヲシテ分

科會ノ構成及任務ノ範圍ヲ起草セシムルコトニセリ

右幹部起草案ハ三月十六日第四回國防費委員會ニ於テ審議セラレ左記ノ如ク決定ス (Conf. D/C. D./4)

(一) 専門分科會ノ構成

議長	「サヴェル、ラドゥレスコ」 (Savel Radulesco)	(羅)	(國防費委員會副議長)
委員	荒川 昌 二	(日)	
	「エフ、グロゴン」 (F. Grohine)	(蘇)	
	「ジャコメ」 (Gaeomet)	(佛)	
	「イー、エム、ジエ、キャスリンズ」 (E. G. Kissling)	(瑞西)	
	「ケー、ライオン」 (K. Lyon)	(英)	
	「ジーン、ド、モズレウスキー」 (Jean de Motzlewski)	(波蘭)	
	「アール、ジエー、サンドラー」 (R. J. Sandler)	(瑞典)	
	「ノルマン、デーヴィス」 (Norman Davis)	(米)	
	「セザール、チュメデー」 (Cezare Tumedei)	(伊)	
	「アルヴァロ、ロドリゲス、ド、バスキョネ」 (Alvaro Rodriguez de Vasconellos)	(伯)	
	「ウォールブス」 (Worbs)	(獨)	

各委員ハ一名ノ代理者ヲ以テ代表セシムルコトヲ得

専門分科會ハ必要ノ場合委員會幹部ノ承認ヲ得テ他ノ専門家ト協同スルコトヲ得

(註) 伯委員ハ後「アリノス、デ、メロ、フランコ」 (A. Arinos de Mello Franco) ト交替セリ

(二) 専門分科會ノ任務

(イ) 豫算専門家委員會報告第四章ノ勸告ニ基キ一九三一年五月二十三日聯盟理事會ノ爲シタル決定ニ從ヒ提出セラレタル各國々防費ニ關スル文書ノ審査

(ロ) 本會議ニ參加セル各國代表ヲシテ提出セシムル現狀通報ノ基礎タル決算書ヲ包含セル補足の文書並ニ分科會カ其ノ任務遂行ノ爲メ要求スル情報及説明ヲ審査

(ハ) 委員會カ分科會ニ附託スルヲ可ナリト認ムル經費ノ制限並ニ公表ニ關スル技術的問題ノ審査

(ニ) 附託研究事項ノ報告提出

(三) 各國代表ニ對スル文書提出要求

委員會ハ本會議ニ參加セル各國代表ニ現狀通報ノ基礎タル決算書ヲ包含セル補足の文書並ニ分科會カ其ノ任務遂行ノ爲メ要求スル通報及説明ヲ提出センコトヲ求メ且分科會ノ起草スル質問集ニ從ヒ各國現行豫算制度ニ關スル詳細ナル説明(豫算ノ編成提出決定實行監督)ヲ速ニ分科會ニ提出セラレンコトヲ求ム

第二、國防費委員會附託事項

上述ノ如ク國防費委員會ハ専門分科會ヲシテ各國ノ國防費關係文書ヲ審査セシムル外技術的問題ノ研究ヲ爲サシムルコトヲ決定シタルカ同委員會ニ於テハ第二節第二項ニ明ナルカ如ク數回ニ互ル討議ノ後左記事項ヲ専門分科會ニ附託シタリ右ニ關シ國防費委員會議長ハ専門分科會ニ於テハ委員會ニ於ケル討議ヲ考慮ニ入レテ其ノ審議ヲ進メンコトヲ注意シタリ

(甲) 「年次經費」ノ定義

(一) 「經費」ノ定義

(二) 會計年度計算

(三) 議會協贊豫算ノ公表 (附、佛國提案(Conf. D/C. D./17))

(乙) 「國防費」ノ意義及範圍

- (四) 機密基金及經費充當ノ變更 (附、獨逸提案第二項及末項 (Conf. D./C. D./15))
- (五) 總經費ト純經費
- (六) 補助金、貸付金及企業參加
- (七) 軍縮ニ基ク特別經費
- (八) 豫算外經費 (附、獨逸提案 (Conf. D./C. D./18))
- (九) 附屬書案ノ定義ハ限定的ニ非ス
- (一〇) 定額ノ繰越
- (一一) 附屬書表 C、D、E、F
- (丙) 國防費ノ分類
- (一二) 公表樣式
- (一三) 經費充當ノ變更
- (一四) 公表樣式各章ノ内容及分類
- (一五) 附屬書案ノ定義ハ限定的ニ非ス
- (一六) 經費ノ三軍別區分 (附、芬蘭提案 Conf. D./C. D./23 波蘭提案 Conf. D./C. D./24)
- (一七) 附屬書表 A、B
- (一八) 對照表例外 (附、獨逸提案第一項 Conf. D./C. D./15 no. 1)
- (丁) 特ニ公表ニ關スル問題
- (一九) 公表樣式發送期限決算 (附、洪牙利提案但書面ニ非ス)
- (二〇) 條約案第三十三條 (附、日本提案 (Conf. D./C. D./27) 蘇聯提案 (Conf. D./C. D./26))

- (二一) 國防ニ關スル或種法規ノ通報
- (戊) 制限額決定ニ關スル問題
- (二二) 三軍別制限額間ノ融通
- (二三) 各年度間融通ニ關スル制度額ノ決定
- (二四) 各種貨幣購買價值ノ變動
- (癸) 其ノ他ノ問題
- (二五) 軍事豫算及決算ノ統一 (附、獨逸提案 (Conf. D./C. D./15))

第二項 専門分科會ノ事業

第一總 說

一、専門分科會ノ事業概觀

専門分科會ハ三月十七日ヨリ七月二十八日迄非公開ヲ重ヌルコト五十回其間其ノ任務ノ一半タル各國ノ國防費ニ關スル提出文書審査ノ準備行為及其ノ審査ニ專注シ其任務ノ他ノ一半タル國防費委員會附託二十五ヶ問題ノ技術的研究ニ付テハ文書審査ト分離シテ研究シ得ルモノト然ラサルモノトニ區別シ前者諸問題ニ付テ夫々報告者ヲ選定シタルニ止マレリ (本分科會ニ付テハ事務局ニテ議事録ヲ作成セス各國文書ノ口頭審査ノミニ之ヲ作成ス)

二、各國文書審査ノ準備行為

(一) 各國文書審査ノ準備行為トシテハ三月十六日國防費委員會ノ決定ニ從ヒ各國ノ現行豫算制度ニ關スル質問集ヲ作成シ各國文書ノ提出不完全ニシテ審査不可能ナルニ鑑ミ各國代表ニ對シ至急豫算専門家委員會報告ノ勸告ニ在ル公表樣式對照表及其説明並ニ右ニ關スル決算書豫算書及決算書ノ翻譯ノ提出ヲ求メ同時ニ豫算制度ニ關スル質問集ノ回答ヲ要求シタリ

(二) 次に各國文書審査規定ヲ制定シ文書審査ノ目的及大綱ヲ明ニシ詳細ナル手續ヲ定メタリ

即チ曩ニ豫算専門委員會ハ條約案ニ規定セラレタル經費ノ公表及制限ノ方法ヲ研究シ公表様式ノ形式ヲ定メ之カ記入方法ニ關シ指定及納付ヲ爲シ居レルヲ以テ今日専門分科會ノ目的ハ豫算専門委員會起草ノ公表様式カ最近年度ニ於ケル國防ニ關スル總テノ經費ヲ表示スル實用的手段タリ得ルヤ否ヤヲ檢査スルニ在リ總テ各國文書ハ公表様式ニ記入セラレタル國防費ノ普通其ノ分類公表様式ト國家ノ公表計算書ノ數字トノ照合右數字ノ檢査公表様式作成ニ生シタル困難ノ諸見地ヨリ之ヲ研究スヘキモノナルコトヲ明ニシタリ其ノ審査手續ハ書面審査ト口頭審査トヲ骨子トシ各國代表及分科會幹部ノ書面ヲ以テ提出スル一國文書ニ關スル「オブザーヴェーション」ニ對シ當該國代表ハ之ニ書面ヲ以テ回答シ後當該國代表出席ノ上分科會ニ於テ口頭審査ヲ行フモノトス

分科會ハ右手續中ニ情報交換同時原則即チ他國カ完全ナル文書ヲ提出スルニ先チ一國ノ文書審査ヲ開始シ得サルコトノ原則ヲ認メ各國ノ提出文書カ審査開始可能ナルヤ否ヤヲ審査スル爲メ瑞典委員ヨリ成ル二名ノ小分科會ヲ設置シタリ之ヲA小分科會ト呼フ

(三) 分科會ハ國防費ニ關スル各國現狀通報ヲ研究シタル聯盟事務局作成ノ「メモランダム」ヲ審議シ各國文書ニ對スル質問綱領ヲ作成シ各國ノ「オブザーヴェーション」提出範圍ヲ決定シタルカ其ノ綱領案作成ニ當リタル佛、獨、英、伊、瑞典、各委員ノ小分科會ヲ轉シテ各國文書ニ對スル「オブザーヴェーション」ヲ分科會幹部ト協力シテ分類シ其必要ト認ムル問題ヲ之ニ附加スルB小分科會ヲ組織シ又各國文書ニ關シ佛、獨、瑞典、英、伊ノ五名ノ報告者ヲ選定シ其會合ヲC小分科會ト名ツケタリ尙右C小分科會ハ報告ノ外審査終了セル各國文書ノ各々ニ付「プロトコール」ヲ作成ス

三、各國文書審査概況

各國文書ハ未提出ノモノ少ナカラサルモ専門分科會出席十二ヶ國ハ「ブラジル」ヲ除キ七月末迄ニハ全部提出済ニシテ瑞典英國ヲ初メトシテ自ラ情報交換同時原則ヲ放棄スル國多ク從テ審査ハ審査規定ニヨル順序ニ依ラスシテ行ハレ來レリ而シテ七月二十八日迄ニ文書審査ヲ終了セルモノハ英、印、瑞西、佛、波蘭、智、丁、獨、米、伊ノ十一ヶ國(但シ米國ハ九月第二回口頭審査ヲ行フ)ニシテ既ニ文書審査開始セラレ「オブザーヴェーション」ニ對スル回答ヲ待チ居ルモノ白、愛、和、南亞、諾、「アルバニア」、羅ノ諸國アリ八月一日迄ニ「オブザーヴェーション」提出セラルヘキモノ日、蘇、「ユーゴースラヴィヤ」ノ三國アリ我方ハ五月五日補足の文書提出以來分科會出席諸國ノ文書提出終ル迄同時原則ヲ主張(國防費委員會第六回會議ニ於テ聲明)シ居タルモ七月上旬蘇聯文書提出後七月十二日議事ノ進行及各國ノ「オブザーヴェーション」ヲ休暇前ニ入手シ度キ希望ヲ有シ且右原則ノ放棄ヲ爲スヘキ旨通告シタル爲メ日蘇兩國文書ハ七月十四日より審査開始セラレ九月月上旬回答提出ノ上九月中旬口頭審査ヲ行ハルル豫定ナリ

文書審査ノ結果ニ付テハ各國毎ニ「プロトコール」作成セラレ七月末迄ノ分ハ九月中旬頃ニ配布セラルル豫定ナルカ前記十一ヶ國ノ中英、瑞西、瑞典、智、丁、伊、獨ノ諸國ノ分ハ國防費豫算ノ公表及制限ノ點ヨリミテ大體ニ満足スヘキモノナリト認メラルルモ佛、波蘭、米ノ分ハ不十分タルヲ免レス

第二、各 論

一、豫算制度ニ關スル質問集ノ作成

第四回國防費委員會ノ決定ニ基キ専門分科會ハ各國豫算制度ニ關スル質問集ヲ議定作成シタリ其ノ質問事項内容(Conf. D/C. D. 6)左ノ如シ

(一) 豫算ノ準備

豫算ノ準備ニ參加スル機關如何

(二) 討議、票決及實行着手

- (イ) 行政機關及立法機關相互ノ權限如何
- (ロ) 如何ナル法規ニ依テ豫算カ實行セラル、ヤ
- (ハ) 豫算不成立ノ場合如何ナル手段ヲ採ルヤ
- 如何ナル官憲カスル手段ヲ採ル權限ヲ有スルヤスル手段ノ有効期間如何
- (ニ) 豫算ノ期間如何
- (ホ) 豫算ハ公表セラルルヤ然リトセハ其ノ期日如何
- (三) 豫算ノ構成
- 豫算ノ單一、普遍性
- (イ) 國家豫算ハ總テ一個ノ總豫算ニ包含セラル、ヤ特殊ノ豫算基金又ハ計算アリヤ然リトセハ如何ナルモノナリヤ豫算専門家委員會報告第三章ノ定義ニ依ル獨立會計ノ軍需工場アリヤ
- 經費ハ總計の原則ニ據レルヤ又ハ純計の原則ニ據レルヤ
- (ロ) 各種ノ強制的寄附金ヲ含ミ國防費ニ用ヒラルル豫算外財源如何
- (ハ) 國家行政外ニ於テ國防費ヲ處辨スル公共團體若ハ私立團體アリヤ國防費ヲ含ム豫算(州、「カントン」邦、市町村及他ノ官憲)ハ如何
- (ニ) 豫算ハ如何ニ分類セラル、ヤ(經常費及臨時費等)
- (四) 豫算ノ實行
- (イ) 豫算ノ決定ハ定額使用權ヲモ附與スルモノナリヤ若ハ大藏大臣又ハ他ノ官憲ノ特別ノ許可ヲ必要トスルヤ
- (ロ) 約束、清算、支拂證書又ハ命令ノ發行、支拂(注文及契約國家債務ノ創設證明及承認、支拂命令及支拂手形ノ發行支拂)如何豫算年度經過後尙斯ノ如キ行爲カ實行セラレ而モ該年度ノ計算ニ入ルヘキ期間ハ如何

- (ハ) 豫算ニ計上セサルカ或ハ充分ニ計上セサル經費ニ關スル手續如何
- (ニ) 豫算科目間流用ニ關スル手續如何
- (ホ) 後年度豫算ノ負擔トナルヘキ契約ニ關スル特別ノ權限アリヤ
- (ヘ) 或年度ヨリ他年度ヘノ定額ノ繰越ニ關スル手續如何
- (ト) 行政組織ニ於テ基金ノ分配ヲ確實ニスル機關如何並ニ國防費ノ經理ハ如何ニシテ爲サル、ヤ
- (五) 検査並ニ監督
- (イ) 會計組織、財政、監督、統制ニ關スル規則如何
- (ロ) 豫算ノ實行期間其ノ監督ハ如何ニシテ行ハル、ヤ
- 如何ナル範圍ニ於テ及如何ナル方法ニ於テ行政的及立法の機關カ此ノ監督ヲ行フヤ
- (ハ) 豫算實行後ノ監督如何其ノ機關如何
- (ニ) 立法及行政機關ニ對スル是等監督官憲(總監、監督局、検査院)ノ法律的地位如何
- (ホ) 契約書、證明書、支拂命令及支拂手形ノ検査登簿、裏書ニ關シ是等機關ノ權利及義務如何殊ニ是等機關カ不法又ハ不正規ノ手段ニ反對スル權利如何
- (ヘ) 計算ノ調整提出、検査公表解除ニ對スル手續及期間如何

二、國防費ニ關スル各國補足の文書ノ提出問題

(一) 會議開催當時ノ軍費現狀通報狀態

昭和六年五月二十三日聯盟理事會ハ各國政府ニ豫算専門家委員會ノ勸告ニ從ヒ最近ノ決算ノ基礎ニ於テ公表様式ヲ作成送付センコトヲ求メタルカ軍縮會議ニ招請セラレタル六十四ヶ國中軍費ニ付通報シタルハ四十三ヶ國ノミ即チ「エストニア」「ルクサンブルグ」「希臘ヲ除キ歐洲諸國二十五ヶ國南北米七ヶ國(米、加「コロンビア」「キューバ」「ハイチ」「ウ

ルグアイ」「コスタリカ」) 亞細亞五ヶ國(日本、印度、波斯、「シヤム」、「ヘジャス」、土耳其) 亞弗利加三ヶ國(南亞、埃及、「リベリア」) 濠洲二國(「オーストラリア」新西蘭) ナリ右ノ内十四ヶ國ハ豫算ニ依リ公表様式ヲ作りタルモ決算ニ依ラス概算ニ依ルモノ少ナカラス多數ノモノハ報告ノ要求セル對照表及説明ヲ提出セス如何ナル經費カ公表様式ニ含マレタルヤ如何ナル方法ニ依リ記入セラレタルヤ明ニシ得サルモノ多シ

陸軍及海軍又ハ空軍ヲ有セル三十七ヶ國ノ内二十一ヶ國ノ公表様式ノミ各軍別經費ヲ示シ軍隊の組織團體ノ經費ハ十七ヶ國ハ之ヲ包含セシメ十一ヶ國ハ別ニ爲シタリ

(二) 各國代表ニ對スル文書提出要求ニ關スル書翰ノ發送各國文書ノ提出上述ノ如クナルニ鑑ミ專門分科會トシテハ速カニ各國代表ニ補足の文書ノ提出ヲ求ムル必要アリ三月十九日本會議事務總長ヲ通シ左記補足の文書ノ提出方ヲ要求セリ(Conf. D/C. D/5)

(一) 豫算專門家委員會報告ノ指示ニ從ヒ最近ノ決算書ニ基キ作成セル公表様式

(二) 最近ノ會計年度決算書若シ決算書無キ場合ニハ公表様式ノ作成ニ用ヒタル最終支出計算書

(三) 當該年度ノ豫算書

(四) 決算書數字ト公表様式ノ數字トノ關係ヲ明示セル對照表

(五) 公表様式作成ニ用ヒタル方法ニ關スル充分ナル説明特ニ專門家委員會ノ指示ニ反スル事項ノ説明

其ノ他專門分科會作成ノ豫算制度ニ關スル質問集ニ對スル回答

右ノ書類ハ出來得ル限り速ニ能フヘクハ四月十一日迄ニ送付方ヲ希望セリ

右ニ次テ分科會ハ決算書ノ英語又ハ佛語ノ翻譯ヲ必要ト認メ四月十五日附書翰ヲ以テ各國代表ニ之カ提出ヲ求ム

(三) 我方ノ文書提出

右要求ニ對シ曩ニ我方ノ提出セル軍費現狀通報ハ不完全ナリシヲ以テ五月五日(一)昭和四年度ノ決算ニ基ク公表様式

(三)軍別但シ空軍ニ付テハ陸海軍費ト分離シ得サルモノアリ全部ニ非サルヲ明ニス(二)對照表(三)説明(四)昭和四年度總豫算書及總決算書(五)軍費ニ關スル豫算及決算ノ翻譯ヲ一括(Conf. D/C. D/C.T./46)提出シ他方豫算制度ニ關スル回答(Conf. D/C. D/C.T./6)ヲ送付シタリ

三、各國文書審査規定ノ決定

本問題ニ關シ佛國提案ヲ基礎トシテ四月八日より數回討議ヲ重ネ英、伊、蘇、波、獨各委員等各々意見ヲ述ヘ結局英國委員ノ文書審査ノ目的ニ關スル提案等ヲ綜合シテ四月十四日左ノ如ク審査規定(C.D./7)ヲ決定セリ

專門分科會文書審査ノ目的

第一 總則

豫算專門委員會起草ノ公表様式(軍縮會議ハ未タ採擇セサルモ)ハ最近年度ニ於ケル國防ニ關スル總テノ經費ヲ表示スル實用的手段タリ得ルヤ否ヤヲ檢査スルコト

第二 細目

前記ノ目的ニ鑑ミ左記事項ヲ研究スルコト

(イ) 審議セラルヘキ經費ノ公表ハ充分ニ統一の基準ニテ記入セラレタリヤ否ヤ及豫算專門家委員會報告記載ノ指示及

勸告特ニ國防費各項目ノ算出及其分類ニ關スル事項ニ遵ヒタルヤ否ヤ

(ロ) 豫算制度及其ノ他ノ相違ニ依リ公表様式記入ニ當リ生シタル困難如何

(ハ) 審査セラルヘキ經費ノ公表數字ハ各國ノ檢査及公表計算書又ハ他ノ計算書若ハ他ノ權威アル文書ヨリ得タルモノ

ナリヤ

(ニ) 公表様式ノ數字ト其國ノ公表計算書ニ現ハレタル數字トノ間ノ關係ハ對照表ニ説明シアリヤ否ヤ

以上ノ職務ヲ遂行スル爲專門分科會ハ左ノ審査規定ヲ制定ス

- (一) 分科會ハ本會議參加各國ノ提出文書ヲ審査ス
- (二) 分科會ハ第一ニ分科會出席各國ノ提出文書ヲ審査ス
審査ヲ受クヘキ第一國ハ抽籤ニ依テ決定セラルヘシ
其ノ他ノ國ノ文書ハ抽籤ニ依テ決定シタル「アルファベット」順ニ審査セラルヘシ
- (三) 分科會ハ第二ニ分科會非出席國ノ文書ヲ審査ス其第一國ハ抽籤ニ依テ決定セラルヘシ其他ノ國ハ抽籤ニ依テ決定シタル「アルファベット」順ニ審査セラルヘシ
- (四) 分科會ニ出席セルト否トヲ問ハス抽籤施行以前ニ文書ヲ分科會ノ審査ニ附スル意思ヲ表示シタル國ニ對シテハ分科會ハ當該國文書ノ審査開始ヲ決定スルコトヲ得
- (五) 文書ノ同時交換ヲ保障スル爲ニ二名ノ委員ヨリ成ル小分科會ハ分科會ノ要求スル通報力完全ニシテ審査開始ニ支障ナキヤ否ヤヲ決定スル爲ニ各國提出文書ヲ審査ス
- (六) 分科會幹部ノ決定セル期日迄ニ分科會委員ハ被審査國ノ文書ニ關スル「オブザーヴェーション」ヲ文書ニテ幹部ニ送付スルモノトス
- (七) 分科會非出席代表ハ第六項記載ノ期限迄ニ「オブザーヴェーション」ヲ幹部ニ送付スルコトヲ得
- (八) 幹部ハ「オブザーヴェーション」ヲ受ケ之ヲ分類シ關係國代表者ニ送付ス
幹部ノ指定シタル期限後受領セル「オブザーヴェーション」ハ關係國代表ニ送付セス
- (九) 「オブザーヴェーション」ノ受領ノ日ヨリ十日以内ニ關係代表ハ文書ニテ其回答ヲ幹部ニ送付ス
- (一〇) 「オブザーヴェーション」及之ニ對スル回答文書寫ハ幹部ヨリ分科會委員ニ送達ス
- (一一) 分科會委員カ「オブザーヴェーション」及其回答ヲ研究スルニ充分ナル期間ヲ經テ幹部ハ當該國ノ提出セル通報全體ニ關シ討議ノ爲分科會ヲ招集ス

分科會出席國代表其當番ノトキ分科會ニ代表ヲ送り其文書討議ニ參加スルモノトス希望ニヨリ一名又ハ數名ノ専門家を帶同スルコトヲ得

(一二) 分科會ハ必要ト認ムル場合第二回審査ヲ行フコトアルヘシ

文書審査ハ上記審査規則ニ基キ會議參加六十ヶ國全部ノ文書提出ヲ俟テ同規則所定ノ方法ニ依リ決定シタル順序ニ從ヒ之ヲ開始スルヲ原則(所謂文書交換同時原則)トシ此原則ニ對スル權利ヲ放棄シタル國ハ審査順序ノ如何ニ拘ラズ文書ノ完備ヲ俟テ直ニ審査ヲ受クルコトナルモノナリ然レドモ事實上ハ文書提出ト同時ニ文書交換同時原則ヲ放棄スル國多ク且又文書未提出國モアルヲ以テ審査規定ノ所定ノ方法ニ依リ決定セラレタル順序ニ依リ居ラス

第一群タル分科會出席國ノ順序ハ抽籤ノ結果第一番ハ日本ニ當リ以下「アルファベット」順ニ波蘭、羅、蘇トナリタルモ我方ハ分科會出席國ノ文書提出完了迄同時原則ヲ固守シ居タルト同時原則ノ權利拋棄國多數ナリシタメ瑞西、英、瑞典、佛、波蘭、獨、米、伊、羅、日、蘇、伯ノ順序トナレリ

第二群タル分科會非出席國ノ順序ハ第一番ニ玖馬當籤シ次位ハDヨリ「アルファベット」順ニ定メタリ

但シ第二群國中印度、「チエゴ」、丁抹、白、愛、和、南亞、諸、勃、「ユーゴースラヴィヤ」等ハ同時原則ノ權利ヲ拋棄シ第一群諸國ノ間ニ入りテ文書審査ヲ受ケタリ

四、各國ノ國防費ニ關スル現狀通報ニ關スル覺書ノ審議

聯盟事務局ハ國防費委員會幹部ノ要求ニ依リ各國ノ軍事現狀通報ニ關スル覺書(Conf. D/C. D/C.T./I)ヲ提出シタルヲ以テ専門分科會ハ四月十九日ヨリ數回ニ互リ此ヲ審議シタルガ其ノ内特ニ問題トナリ分科會ノ留意セル重ナルモノ左ノ如シ

- (一) 文書未提出ノ國多數アルヲ以テ督促スルノ必要アルコト
- (二) 對照表ハ報告第十四章ノ趣旨ニ基キ公表様式ニ充當セル數字ノ各々ニ付詳細ニ決算表トノ關係ヲ明ニス即チ決算書

ノ數字ガ如何ニ抽出セラレテ公表様式ニ充當セラレタルカヲ明ニスルモノナルコトヲ要ス

此ノ點ニ付英國海軍ノ分ハ典型的ナリト認メラル

對照表ノ形式ノ統一ハ必ズシモ必要ニ在ラス要ハ前述ノ目的ヲ達スレハ足ルモ各國文書審査ノ後ニ對照表形式ノ統一ヲ考慮スルヲ可トスヘシ

(三) 整理期間(「エキゼルシス」)ヲ有スル豫算制度ニ對シテハ佛國委員ノ云フガ如ク年度開始後十二ヶ月ヲ經テ二ヶ月

内ニ該年度ノ國防費ノ支拂特別計算書ヲ送付スルコトヲ條約中ニ規定スル要アルヤ否ヤ報告第六章ノ勸告ハ研究セラレタルヤ否ヤハ如何ナル程度迄決算制度ノ統一ヲ得ルヤノ問題アルモ右ハ追テ研究スルヲ要スヘシ

(四) 決算ノ檢査力遅ル、場合條約ノ署名ハ困難トナルヘシ

(五) 總經費ノ意義ヲ明瞭ナラシムルコトヲ要ス

(六) 軍隊の組織團體ノ主義ハ條約上不明確ニシテ如何ナルモノヲ軍隊の組織團體トシテ經費中ニ入ルヘキヤニ付テハ陸軍委員會ノ意見ヲ徵スルノ必要アリ

(七) 公表様式第四章器材ハ重要性ヲ有ス

空軍器材經費ノ制限問題ハ専門家委員會ノトル處トナラサリキ

(八) 經費ノ三軍別ニハ困難ナル國アリト雖モ専門家委員會ニ於テハ必スシモ不可能ニアラスト認メタリ

五、各國文書ニ對スル質問綱領ノ作成

前述各國ノ軍備現狀通報ニ關スル「メモランダム」審議ニ際シ英國委員ヨリ各國ノ提出スル「質問」ノ範圍ヲ明ニスル爲ニ幹部ニ於テ基本的質問ノ表ヲ作成シ之ヲ本分科會ニ於テ討議決定センコトヲ提議シ討議ノ後獨、英、佛、伊、瑞典ノ委員ヲ以テ構成スル五名ノ小分科會ヲシテ幹部ノ作成スル單ナル提言ニ基キ草案ヲ作ラシメ之ヲ本分科會ニ提出セシムルコトニ決定ス

依テ右小分科會ハ「エイド、メモアール」(Conf. D/C. D/C.T./32)ヲ作成提出シ五月三日本分科會ハ之ニ多少修正ヲ加ヘ採決セリ右ハ

A、豫算制度ニ關スル問題(専門分科會作成質問集参照)

B、「國防費」ノ字義ノ解釋

C、公表様式記入ノ經費ノ普遍性

D、公表様式記入ノ經費ノ分類

E、附屬表A、B、C、D、E、F

ノ各章ヨリ成リ多少ノ「オブザーヴェーション」ノ綱領ヲ配列シタルモノナリ各國ハ右綱領ノ範圍内ニテ各自「オブザーヴェーション」ヲ提出スルコトヲ得

(註) 後A及Bニ數項ノ追加(Conf. D/C. D/C.T./36)ヲ見タリ

六、小分科會ノ設置ト審査規定ノ運用

(一) 小分科會ノ設置ト構成

(イ) A 小分科會

審査規定(五)ニ依リ各國ノ提出ニカ、ル文書ガ完全ニシテ審査開始ニ支障無キヤ否ヤヲ決定スル二名ノ小分科會ヲ設置シ「サンドラー」(瑞典)「キスリング」(瑞西)ヲ以テ之ヲ構成ス他ノ小分科會設置セラル、ニ及ンデ之ヲA小分科會ト名ヅク

(ロ) B 小分科會

専門分科會ハ初メ各國文書審査ニ關スル質問綱領ヲ決定スル爲四月二十七日質問綱領案作成小分科會ヲ設置シ獨、英、佛、伊、瑞典委員ヲ以テ之ヲ構成シタルハ前述ノ如クナルガ右小分科會ハ五月三日質問綱領決定後引續キ各國文書ニ

對スル諸國ノ「オブザーヴェーション」ニ付分科會幹部ト協力シテ之ヲ分類シ其ノ必要ト認ムル一般問題又ハ補足の問題ヲ附加スルノ任ニ當リタリ之ヲB小委員會ト名ヅク

(ハ) C 小分科會

専門分科會ハ五月二十日各國文書審查ニ付テノ副報告者トシテ豫算制度ニ關シテ「ジャコメ」(佛)國防費ノ定義ニ關シ「ウォールブス」(獨)公表様式ニ記入セラレタル經費ノ普遍性ニ關シ「サンドラー」(瑞典)公表様式ニ記入セラレタル經費ノ分類ニ關シ「ライオン」(英)附屬表ニ關シ「バルベリス」(伊)ヲ選定シ其後總報告者トシテ「ジャコメ」ヲ選定シタルカ右報告者ハ相互聯絡ノ爲議長主宰ノ下ニ時々會合ヲ行フコトトシ之ヲC小分科會ト名ヅケタリ尙右小分科會ハ同時ニ審查ノ終了セル各國文書ニ付各々「プロトコール」ヲ作成ス

(二) 審査規定ノ運用

各國文書審查ニ關スル上述審査規定ハ各種小分科會ノ構成ニ伴ヒ實際上左ノ如ク運用セラレツツアリ
即チ審査方法ハ左ノ三階段ニ分タル

第一段 文書ノ提出

A 小分科會ハ提出文書カ完備セルヤ審査可能ナリヤ否ヤヲ調査ス文書完備シ且審査ヲ開始シ得ルモノト認メタルトキハ幹部ハ審査開始時期及「オブザーヴェーション」送付期限(通例審査開始ノ日ヨリ二十日間)ヲ各國代表ニ通告シ各國文書ハ委員會館M室ニ備ヘテ閱覽ニ供ス(公表様式對照表及説明書並豫算制度ニ關スル各國情報ハ各委員ニ配布シ來ル)

第二段 文面審査

各國代表ガ提出國ノ文書ヲ審査シ之ニ對スル「オブザーヴェーション」及質問ヲ文書ニテ分科會幹部會ニ送付ス
分科會幹部會ハ之ヲ(A)豫算制度ニ關スル問題(B)國防費ノ意義(C)公表様式記入經費ノ普遍性(D)公表様式記

入經費ノ分類(E)附屬表ノ五項目ニ分類シB小分科會モ之ニ協力シ其ノ必要ト認ムル一般問題又ハ補足の問題ヲ附加シ幹部會又ハ必要ト認ムル補足の問題ヲ附加ス次之ヲ當該關係國ニ送付シ當該關係國ハ之ニ對シ十日以内ニ回答文書ヲ分科會幹部會ニ送付シ幹部會ハ之ヲ各國代表ニ配布ス

第三段 口頭審査

口頭質問ヲ爲ス前ニ分科會ハ豫算審査ヲ行ヒ質問事項ヲ一定ス此ノ場合ハ被審査國代表ハ出席セサルヲ例トス(出席セサルコトニ定メントシタルモ蘇聯委員ノ反對アリテ被審査國代表ノ自由トセリ)

口頭質問ハ各項目報告者之ニ當ルコトヲ原則トシ他ノ委員ハ補足的ニ質問ヲ爲スコトヲ得

新ナル問題ニ就キ質問ヲ爲シ得ルモ之ニ對シ當該國代表ハ即答セサルコトヲ得又質問ニ依リテ即答シ得サル事項ハ後日文書ヲ以テ回答スルコトヲ得右口頭質問ニ依テ審査尙充分ナラスト認メラルトキハ更ニ第二回口頭質問ヲ爲スコトヲ得

口頭審査終了後C委員會ハ被審査國文書ニ付「プロトコール」ヲ作成ス

七、各國文書審査

各國文書審査ハ審査規定ノ順序ニ依ラス同時原則ヲ放棄シタル國ニシテ審査可能ノ文書ヲ提出セルモノヨリ遂次行ハレタルガ七月二十八日迄ニ文書審査ヲ終了セルモノハ總説ニ記述ノ通り英、印、瑞西、瑞典、佛、波蘭、智、丁、獨、米、伊ノ十一ヶ國(但米國ハ九月第二回口頭審査ヲ行フ)ニシテ既ニ文書審査開始セラレ「オブザーヴェーション」ニ對スル回答ヲ待チ居ルモノ白、愛、蘭、南亞、諸、「アルバニア」、羅、勃ノ諸國アリ八月一日迄ニ「オブザーヴェーション」ノ提出セラルヘキモノ日、蘇、「ユーゴスラヴィヤ」ノ三國アリ右審査終了國ノ結果ヲ綜合判斷スルニ左ノ如シ

(一) 英 國

英國ハ本國ニ關スル軍備現狀通報(C. 476. M. 203 [Cont. D, 6])殖民地及保護領ニ關スル軍備現狀通報(C. 45. M. 26

[Conf. D./19] 及補足的通報 (Conf. D./C. D./C.T./19 et 34) 並豫算制度ニ關スル回答 (Conf. D./C. D./C.T./18) 等ヲ提出セルガ

右ニ對シ我方ヨリハ左記ノ如キ「オブザーヴェーション」(附屬甲第一號參照)ヲ提出セリ

(一) 陸軍ニ關スル公表様式ニ付テ

(イ) 地方軍財産ノ課稅推定額二十萬磅ヲ計上シアルハ實際支出額ヲ計上スヘキ報告ノ趣旨ニ背馳セズヤ

(ロ) Colonial Office 又ハ Colonial Government ノ負擔ニ屬スル陸軍部隊經費ハB表中ニ包含セラレ居ラス蓋シ尙該部隊ハ陸軍本省ノ隸下外ナルヲ以テナリ (B表 note)

右ニ付陸軍本省ノ管轄ニ屬セサル各種ノ軍隊及其經費ハ不明ナルカ行政官廳ノ實際的支出ノ方面ヨリ之ヲ算出シ得サルモノナリヤ

右經費ハ報告條約案附屬第八項ニ依リ公表様式ニ入ルヘキモノニ非ルカ

(二) 海軍ニ關スル公表様式ニ付テ

航空母艦ノ維持及修理ニ要シタル經費ハ如何ナル標準ニテ海軍ト航空トニ區分セシヤ

(三) 空軍ニ關スル公表様式ニ付テ

(イ) 英本國內ノ現役勤務及非現役勤務ニ對スル年度補助金額決定ノ基準如何

(ロ) 在印度空軍ノ經費ハ之ヲ英本國ノ航空軍費中ニ計上シ當該空軍ノ人員及航空機ハ之ヲ英本國空軍中ニ計上シアラサルハ主旨一貫セサルモノト認メラル理由説明アリタシ

(ハ) 將校休職俸ヲ他ノ恩給ト共ニ控除シアル理由如何右ハ英本國陸軍ノ經費通報ノ例ニ依リ國防費中ニ計上スヘキモノニ非ルヤ

右ハ英國文書ニ關スル各國ノ「オブザーヴェーション」中 (Conf. D./C. D./C.T./47) ニ分類セラレタルカ右ニ對スル英

國ノ回答 (Conf. D./C. D./C.T./57) 同追加 (Conf. D./C. D./C.T./57a) ハ追記 (一)(イ)(ロ)(三)(ロ)(ハ)ニ付テハ不
充分ナリト認メラレ

五月三十一日口頭審査 (Conf. D./C. D./C.T./Audition/P.V. 1) ニ於テ報告者ヨリ英國代表ニ夫々再問シタル處

(一)(イ)ニ付テハ英國代表ハ實際支拂額ニ非ル二十磅ヲ計上セルハ條約附屬書案三項ニ牴觸スルモノナルコトヲ認ムルモ右ハ「八項第五ニ從テ入レタルモノニシテ右ニ關スル原則一定セラル、ニ於テハ之ニ從フヘシ」ト答ヘ

(二)(ロ)ニ付テハ殖民地ノ軍隊ニハ二種アリ一ハ英本國ヨリ支拂ハルル正規軍隊他ハ殖民地ヨリ支拂ハル、軍隊之ナリ前者ノ費用ニ付テハ英本國ノ公表様式中ニ算入シアルモ後者ノ費用ニ付テハ其ノ概算ヲ記載シアル旨ヲ述ヘ殖民地ニ於ケル決算方法ヲ説明シ本國ト同一ニハ爲シ得サルモ將來豫算制限ノ際ハ各殖民地ニ於テ軍事費ノ決算書ヲ作り得ヘシト云フ

(三)(ロ)ニ付テハ本國ノ印度ニ對スル「サーヴィス」ノ費用ハ印度空軍ニ入ル、トキハ二重計算トナルモノナルコトヲ認ム(印度ノ分ニハ入レ居ルモノノ如シ)

(三)(ハ)ニ付テハ誤ナリシヲ認ム

豫算制度ニ付テハ公表許可審査監督何レモ明白ニシテ曖昧ナル處ナク豫算ハ廣範圍ニ及ヒ居レルカ爲ニ豫算外ノ軍費支出少シ

(二) 印 度

印度ハ軍備現狀通報 (C. 844. M. 423 [Conf. D. 31]) (C. 844. M. 423 [Conf. D. 31]) ノ追加訂正及豫算制度ニ付テノ回答 (Conf. D./C. D./C.T./17) 等ヲ提出シタルカ右ニ對シ我方ヨリ左ノ如キ「オブザーヴェーション」(附屬甲第二號)ヲ提出シタリ

(一) 經費上ヨリ視タル印度軍ト人員及航空機ヨリ視タル印度軍トハ其ノ内容及範圍ハ一致シ居ルモノト諒解シ差支ヘ

ナキヤ

(11)(イ) Contribution from Government of India for home effective Services £106, 250

(ロ) Repayment by Indian Government £600,100

前項ノ全部又ハ一部ハ印度空軍ノ經費中ニ包含シアリヤ

包含シアラストセハ何レノ部局ノ支出トナシアルヤ

右ハ各國ノ「オブザーヴェーシオン」(Conf. D./C. D./C.T./50)中ニ分類(D₁ D₂)セラレタルガ右ニ對スル印度ノ回答

(Conf. D./C. D./C.T./57)ハ不充分ナリ

六月三日口頭審査ニ於テ其詳細ニ付説明シ得サルヤト問ヒタルニ對シ其ノ詳細ニ付テハ英國委員ノ協力ヲ乞ヒ説明スヘシト答フ

印度ノ豫算制度ハ豫算年度ノ開始「エキゼルシス」制度ノナキコト等英本國ト類似シ居レルモ立法及行政權ノ分立セサル爲豫算ノ協賛實行監督検査充分トハ認め難シ殊ニ印度諸國ノ軍事費ニ付テハ印度政廳ニテ諸國ト協力ニ依リ正確ナルモノヲ公表様式ニ入レタル趣ナルモ右諸國ノ軍事費ノ決算ナルモノナク將來モ之カ發表ハ事實上困難ナルモノノ如シ(議事録 Conf. D./C. D./C.T./Audition/P.V. 2) 二頁参照)

(11) 瑞 西

瑞西ハ軍備現狀通報同附屬(C. 845. M. 424 [Conf. D. 32 et Annexe) 及對照表(Conf. D./C. D./C.T./11) 竝ニ豫算制度ニ關スル回答(Conf. D./C. D./C.T./7)等ヲ提出シ居レルカ各「カントン」ト聯邦政府トノ關係ニ於テ多少ノ曖昧ナル點アルモ大體ニ於テ満足ナリト認メラル

各國ノ「オブザーヴェーシオン」(Conf. D./C. D./C.T./45)右ニ對スル回答(Conf. D./C. D./C.T./59)及口頭審査(Conf. D./C. D./C.T. Audition P.V. 3) 及追加回答ニ付テハ特記スヘキモノナシ

(四) 瑞 典

瑞典ハ軍備現狀通報(C. 541. M. 224 [Conf. D. 10]) 對照表(Conf. D./C. D./C. T./37 (2)) 及豫算制度ニ關スル回答(Conf. D./C. D./C. T./2)等ヲ提出シ居レルカ

右ハ大體ニ於テ満足スヘキモノニシテ國防費豫算ノ公表及制限ニ對スル監督ハ有效ニ行ハル、コトヲ得ヘシ

右ニ對スル各國ノ「オブザーヴェーシオン」(D./C. D./C.T./54) 同回答(Conf. D./C. D./C.T./68) 六月九日ノ口頭審査(Conf. D./C. D./C.T./P.V. 4)ニ付テハ特記スヘキモノナシ

(五) 佛 國

佛國ハ軍備現狀通報覺書及附屬(C. 440/5 M. 187 [Conf. D. 5/0])ヲ提出シタルモ對照表ヲ再製(Conf. D./C. D./C.T./38)シ且其豫算制度ニ關スル回答(Conf. D./C.T./13 及 Erratum)等ヲ提出シタルカ我方ヨリハ左記ノ如キ「オブザーヴェーシオン」(附屬甲第三號)ヲ提出シタリ

陸軍ニ付テ

(一) 左記部隊ノ經費支出額及豫算科目ヲ承知シ得ヘキヤ

(イ) 北支駐屯陸軍部隊

(ロ) 上海ニ於ケル駐屯陸軍部隊

(二) 千九百三十一年七月十五日附軍備現狀通報附屬覺書ニ依レハ一九二五—二六年「モロッコ」及「シリア」事件ノ爲「モロッコ」ニ於テ十三萬六千人ヲ「シリア」ニ於テ三萬三千人ヲ動カスヲ必要トシ本國ヨリ七萬二千五百人ヲ出兵シタリトアル處本事件ノ爲臨時費總額ヲ承知シタシ

海軍ニ付テ

(一) 航空母艦ノ維持及修理ニ要シタル經費ハ如何ナル標準ニテ海軍ト空軍トニ區分セシヤ

(二) 一般測量、漁物監視、信號勤務及救助作業ニ關スル經費ハ國防費ノ性質ヲ有セサルモノトシテ海軍經費ヨリ除外シアリ

其理由ヲ承知シ度シ

右ハ各國ノ「オブザーヴェーション」(Conf. D./C. D./C.T./58) 中ニ分類整理セラレタルカ右ニ對スル佛國回答(Conf. D./C. D./C.T./72)ハ陸軍ノ(一)ニ付テハ回答ヲ避ケ海軍ノ(一)ニ付テハ不満足ナリキ

口頭審査(Conf. D./C. D./C.T./Amition/P.V. 5; P.V. 5(a); P.V. 5b)ノ際海軍ノ(一)ニ付報告者ヨリ之ヲ再問シタルニ佛國代表ハ公表様式中ニハ艦トシテノ航空母艦經費ハ包含セス航空器材(飛行機及空軍砲)並其器材ノ建造維持運用航空母艦上ノ航空ノ事ニ當ル海軍ノ人員ノ經費ヲ包含セリ右經費ハ海軍經費中ヨリ控除ス例ヘハ飛行機ノ消費セル燃料ハ空軍費中ニ入ルルカ如シ

又陸上ノ海軍航空經費ハ空軍經費中ニ之ヲ入レタリ然レトモ空軍ニ關係アル共同ノ一般費ニ關シテハ其比例ヲトルコト困難ナリシヲ以テ之ヲ入レサリキト回答セリ

尙佛國ノ文書ニ付注意ヲ要スヘキハ(イ)一九三〇—三一年度ノ其ノ公表様式ハ豫算專門家報告ノ云フ處ト異ナリ決算ニ依ラス官報ノ非公式ノ部分ニ挿入セラレタル「支拂狀態」ニ依リタルコト(ロ)一九三〇—三一年度軍事豫算中三十三億一千五百萬法(公表要式ノ國防費總額ハ百三十四億四千八百八十一萬一千法)ハ大戰中支拂ハレタル經費ヲ整理スル爲ノ特別ノ豫算ニシテ右ハ現實ニ支拂ハルルモノニ非サレハ公表様式ニ入レストナシ國防費豫算ト公表様式ノ總額ニハ多大ノ開キアリ且佛國代表ハ今後二年ハ尙整理ヲ爲スヲ要シ若シ條約カ締結セラルレハ軍縮條約適用期間中約二十億法ノ新豫算カ要求セラルヘシト聲明シタルコト(佛國代表ハ條約ノ爲ニハ過年度ノ經費及失效セサル過年度以前ノ年度ノ經費ニシテ實際ノ支拂ニ相當スルモノハ之ヲ公表様式中ニ入ルヘキモノト認メ居ルモ大戰中ノ支拂經費ナルモノニ付實際上下外部ヨリ詳細之ヲ檢討スルノ方法無シ)(ハ)佛國航空省ハ軍事航空民間航空ノ兩方面ヲ有シ兩者間ノ共通費用ハ歩

合ヲ以テ定メタルコト且佛國代表ハ民間航空ト軍事航空トニ共通ナル一省ヲ有スル國家ハ何レモ歩合ヲ以テ軍事航空費ト民間航空費トヲ分タサルヲ得サルヘク條約ニハ此ヲ認メサルヲ得サルヘシトノ見解ヲ持シ居レルコト

(六) 波 蘭

波蘭ハ軍備現狀通報(C. 643. M. 257. [Conf. D. 17]) 及右補足の文書(Conf. D./C.D./C.T./52) ト共ニ豫算制度ニ關スル回答(Conf. D./C. D./C.T./33) 等ヲ提出シタルカ

右ニ對シ我方ヨリ左ノ如キ「オブザーヴェーション」(附屬甲第四號)ヲ提出セリ

「一九三二年九月十四日附軍備現狀通報ニ依レハ國境地帶守備隊ハ軍隊の組織團體ト看做サレ居レルカ本年四月三十日附波蘭代表書翰中ニ列舉セラレタル「國防ニ關係アル團體」ノ中ニハ明示セラレ居ラス右團體ニ付テハ他ノ國防ニ關係アル團體ト同様相互の條件ノ下ニ公表様式ヲ提出スルノ意ナルヤ」

右ハ各國ノ「オブザーヴェーション」(Conf. D./C. D./C.T./77) 中ニ分類(C. 31)セラレタルカ波蘭ノ回答(Conf. D./C. D./C.T./58)ハ國境地帶守備兵ノ由來ヲ述ヘ會議ノ決定ニヨリ各國ノ警察組織國境守備兵等カ軍隊の組織團體ナリト認メラレハ之ヲ公表様式中ニ入ルヘキ旨ヲ答フ

右ニ付口頭審査(Conf. D./C. D./C.T./Amition/P.V. 6)ニ於テ報告者ヨリ國境守備隊ノ陸軍省ニ對スル關係ヲ尋ネタルニ波蘭委員ハ同守備隊ハ內務省所屬ニシテ人員ノ選定ノ際陸軍省ノ助力ヲ得ルニ過キスト答フ

尙豫算制度組織監督等ハ相當見ルヘキアルモ正規軍隊ト殆ト異ナラサル國境守備隊ノ經費ノ如キモノヲ國防費中ヨリ除外セル現在ノ公表様式ヲ以テシテハ不充分ナリト云ハサルヲ得ス

(七) 「チェッコ」國

「チェッコ」國ハ軍備現狀通報及附屬(C. 654. M. 266 [Conf. D. 21] et Annexe) 及右ノ補足の文書(Conf. D./C. D./C.T./53) 並ニ豫算制度ニ關スル回答(Conf. D./C. D./C.T./43) 等ヲ提出シタルカ大體ニ於テ満足スヘキモノナリ右ニ關スル各國ノ

「オブザーヴェーション」(Conf. D./C. D./C.T./76) 及「チヤム」回答 (Conf. D./C. D./C.T./92) 並口頭審査 (Conf. D./C. D./C.T. Audition/P.V. 7 及 corrigendum) ニ付テハ特記スヘキモノナシ

(八) 丁 抹

丁抹ハ軍備現狀通報 (C. 555, M. 226 [Conf. D. 2]) 及 (Conf. D. 12a) 右補足の文書 (Conf. D./C. D./C.T./55) 及豫算制度 (Conf. D./C. D./C.T./12) 等ヲ提出シ右ニ對スル各國ノ「オブザーヴェーション」(Conf. D./C. D./C.T./79) ニ對シ回答 (Conf. D./C. D./C.T./97) ヲ提出シタルカ口頭審査 (Conf. D./C. D./C.T./P.V. 8) ニ於テ丁抹代表ハ對照表ノ不完全ニナリタル理由ヲ説明シ専門分科會ニ於テ必要ト認ムルニ於テハ之ヲ再製提出スヘシト云ヘリ
尙豫算制度ハ國防費豫算ノ公表及制限ノ見地ヨリ見テ可ナリト認メラル

(九) 獨 逸

獨逸ハ軍備現狀通報ノ附屬 (C. 524, M. 219 [Conf. D. 9] annex) 及右補足文書 (Conf. D./C. D./C.T./59) 並ニ豫算制度ニ關スル回答 (Conf. D./C. D./C.T./16) 等ヲ提出シタルカ右ニ對シ我方ヨリハ左ノ如キ「オブザーヴェーション」(附屬甲第五號) ヲ提出シタリ

- (一) 對照表ノ概表中ニ在ル公表様式ノ總經費ト決算表ノ純經費ノ差異(陸軍ニ付テハ一〇、五五四、〇三七馬克海軍ニ付テハ二、三五四、九〇六) ヲ適當ナル表ニ依リテ詳細説明シ得サルヤ
- (二) 各省ノ決算ノ科目ニ依リ陸軍ニ對スル一五、一三三、八七六馬克海軍ニ對スル三、六七四、三五九馬克ノ額ヲ詳細説明シ得サルヤ

右ハ各國ノ「オブザーヴェーション」(Conf. D./C. D./C.T./85) 中ニ調整分類セラレ (C. 57. 及 C. 18) 各國トモ同趣旨ノ質問多ク獨逸回答 (Conf. D./C. D./C.T./98) ハ前者ニ付テハ附屬表二及二ヲ後者ニ付テハ附屬表一及一ヲ見ルヘシト答ヘ居ルモ右附屬表ハ概略ニシテ充分ナリト云フヘカラス口頭審査 (Conf. D./C. D./P.V. 9; P.V. 9a) ノ結果ニ付

テハ大體満足スヘキモノアリ

豫算制度中殊ニ監督ニ付テハ大體ニ於テ充分ナリト認メラル

(十) 米 國

米國ハ軍費現狀通報 (C. 413, M. 169 [Conf. D. 1]) 及右補足文書 (Conf. D./C. D./C.T./12 et conf. D./C. D./C.T./6) 並ニ豫算制度ニ關スル回答 (Conf. D./C. D./C.T./6) 等ヲ提出シタルカ右ニ對シテ我方ヨリ左ノ如キ「オブザーヴェーション」(附屬甲第六號) ヲ提出セリ

- (一) Deficiency Bill ハ年度經過後前年度豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ議會ニ提出スルカ如クナルモ右ハ單ニ算入ノ不足ヲ補フ爲ナリヤ然リトセハB表中ニ記入セラレタリヤ
- (二) 陸軍省豫算中 Non military activities ニ關スル經費ハ之ヲB表ヨリ除外シアルカ右理由ヲ各科目毎ニ詳細説明アリタシ
- (三) 布哇及比律賓駐屯部隊ニ要スル國防經費中其ノ地政廳ノ負擔ニ屬スルモノ無キヤ
- (四) Continuing appropriations ニ付テ説明アリ度ク右定額ニハ年限及各年度割ナキヤ
- (五) 公表様式C中ニハ文官ニ對スル俸給、補給等記載無シ海軍ニハ文官ノ勤務者無キヤ若シアリトセハ其ノ經費ハ他ノ項ニ記入セラレ居ルヤ
- (六) 支那及「バナマ」駐屯部隊ノ經費ハ計算ノ何處ニ在リヤ
- (七) 本年議會ニ提出セラレタル豫算ニ依レハ一九三〇年ノ陸軍ニ屬スル空軍經費ハ

空 軍 27,923,870 \$

俸給、隊長、事務所 216,836

總 計 28,140,706

トナリ居レルカ公表額ハ 53,273,385 トナリ居レリ巨大ノ差異ニ付説明アリ度又右費用ハ如何ナル科目ニ包含セラレタルヤ

右ハ各國ノ「オブザーヴェーション」(Conf. D./C. D./C.T./90)中ニ調整分類セラレタルカ米國ノ回答(Conf. D./C. D./C. T./99)ハ要領ヲ得サルモノ多ク其ノ口頭審査(Conf. D./C. D./C. T. Audition P.V. 10 10A)ハ第一回ノミニチハ不充分ニシテ更ニ九月第二回口頭審査ヲ行フコトナレリ

(十一) 伊 太 利

伊太利ハ軍備現狀通報(C. 557. M. 227. [Conf. D. 13])及右補足の文書(Conf. D./C. D./C.T./75)竝ニ豫算制度ニ關スル回答(Conf. D./C. D./C.T./75)等ヲ提出シ

右ニ對シ我方ヨリハ左ノ如キ「オブザーヴェーション」ヲ提出セリ(附屬甲第七號)

(一) 伊太利文書(Conf. D. 13)ノB表ノ「ノート」ニ依レハ一九三〇年—三一年度中ノ經費ニ關シ而モ豫算ノ遅延ノ爲ニ同年度内ニ未支拂ナリシ經費三億「リラ」ヲB表中ニ入レ居レリ

右ハ豫算専門家報告第五章ノ指示ノ除外トミテ可ナリヤ

(二) 右B表ノ「ノート」2ニ依レハ大災害費(Calamité Nationale)ハ支拂實總額ヲ計上ストアルモ(Conf. D./C. D./C.T./75)ノAnnexe Bノ(○)ニ依レハ大災害費ハ之ヲ控除シアリ右兩者ノ關係ヲ説明アリタシ

(三) 公表様式Cニ依レハ退職文官補助金等ハ公表様式ニハ其總額ヲA、B、C、Mニ等分シテ記載シアリ右補助金ノ性質及分配ノ標準ヲ説明アリタシ

(四) 公表様式Cノ第四四頁第五列他ノ行政官廳ヘノ讓渡金トハ如何ナルモノナリヤ第四列ト第五列トノ區別ノ理由如何

(五) 豫算制度ニ關スル伊太利ノ回答ニ依レハ伊太利豫算ハ一年度ノモノニシテ原則トシテ年度繰越金無シ但シ豫算法

ニ依リ特ニ明示セラレタル軍事豫算ノ項ハ然ラストアルカ右項ハ如何ナルモノナリヤ

右ハ各國ノ「オブザーヴェーション」(Conf. D./C. D./C.T./93)中ニ分類セラレタルカ右ニ對スル伊太利回答(Conf. D./C. D./C.T./103)ハ大體ニ於テ満足スヘキモノニシテ我方ノ「オブザーヴェーション」(二)大災害費ニ關シテ同回答(C. 6)

ハ右差異ハ右「ノート」2ノ翻譯ノ誤謬ニシテ陸軍ノ兩者ノ公表様式中ヨリ大災害費額ハ控除シタリト云ヒ我方ノ主張ト合致ス

口頭審査(Conf. D./C.D./C.T./P.V. II P.V. 11a)モ概シテ満足スヘキモノナリ

豫算制度中監督ノ點ハ相當嚴重ナルモノアリ

八、國防費委員會附託問題ノ審査順序

(一) 附託問題中分離審議ノ問題

國防費委員會附託問題ニ付テハ討議ノ末九月ヨリ文書審査ト併行シテ行フコトトナリタルカ附託二十五ヶ問題ニハ公表様式ト密接ナル關係アリテ之カ研究ノ結果ヲ俟タサレハ決定シ得サルモノト公表様式ノ研究ト分離シテ研究シ得ルモノトアリ分科會ハ右分離シ得ル問題ヲ九月ヨリ審議スルモノトシ之ヲ左ノ如ク定メタリ

- 甲 (三) 議會協賛豫算ノ公表
- 乙 (七) 軍縮ニ基ク特別經費
- 丙 (一八) 對照表例外
- 丁 (一九) 決算發送時期
- 同 (二〇) 條約案第三十三條
- 同 (二一) 國防ニ關スル或種法規ノ通報
- 戊 (二二) 三軍別制限額間ノ融通

- 同 (二三) 各年度間融通ニ關スル制限額ノ決定
 同 (二四) 各種貨幣購買價值ノ變動
 癸 (二五) 軍事豫算及決算ノ統一

分科會ハ差當リ乙九丙一五ノ「附屬表案」ノ定義ハ限定的ニ非ス」ハ審議スル必要無シト認ム

右諸問題中貨幣購買價值變動問題ハ複雜ニシテ廣汎ナルニ鑑ミ一應各委員意見交換ノ上専門家ヲ招キテ研究ヲ進ムルコトトシ右ニ關シ覺書ヲ提出セントスル國家ハ休暇中ニ之ヲ作成シテ九月分科會再開ト同時ニ之ヲ提出スルコトニ決定セリ

(二) 分離審議問題ノ報告者

上述ノ各國文書審査終了ヲ待タスシテ之ト分離シテ研究ヲ進ムヘキ諸問題ニ付議長ヨリ報告者ヲ推薦シ左ノ如ク決定セリ

- | | | |
|----|--------------------|--------------|
| 甲 | (二三) 議會協賛豫算ノ公表 | |
| 丁 | (一九) 決算ノ發送時期 | 「モズレウスキー」(波) |
| 同 | (二一) 國防ニ關スル或種法規ノ通報 | |
| 丙 | (二八) 對照表 例外 | 「キスリング」(瑞西) |
| 丁 | (二〇) 條約案第三十三條 | 荒川書記官 |
| 戊 | (二二) 三軍別制限額間ノ融通 | 「バルベリス」(伊) |
| 同 | (二四) 貨幣價值ノ變動 | 「サンドラー」(瑞典) |
| 癸 | (二五) 軍事豫算及決算ノ統一 | 「グロビン」(蘇) |
| 尙乙 | (七) (軍縮ニ基ク特別經費) | |

- 戊 (二三) (各年度間融通ニ關スル制限額ノ決定)
 ノ二問題ニ付テハ議長ニテ交渉中ニシテ決定ニ至ラス

各報告者ハ右諸問題ニ付夫々別箇ノ報告ヲ作成スルコトナレリ

(三) 報告提出時期

議長案トシテハ十月末迄ニハ一應各國文書審査ニ付テノ報告ト共ニ附託諸問題ノ報告ヲ提出セントスルノ意向ニテ分科會ニ諮リタルカ獨逸委員ハ貨幣購買價值變動問題ノ研究ハ短時日ニ終了セサルヘカラスト難色ヲ示シ結局確定ニハ至ラサリシモ他ノ委員ハ之ニ賛成セリ

附屬甲第一號

OBSERVATIONS DE LA DÉLÉGATION JAPONAISE SUR LA DOCUMENTATION DE
 LA GRANDE-BRETAGNE CONCERNANT LES DÉPENSES DE
 LA DÉPENSE NATIONALE.

Classification

B 3

Observations sur le relevé-type B.
 Une somme, estimée à 200.000 livres sterling d'impôts locaux au titre des biens de l'armée, a été indiquée comme représentant le montant qui aurait été versé si des impôts avaient été perçus sur les biens de l'armée territoriale. N'est-ce pas là une exception à l'instruction qui figure dans le rapport du comité d'experts (paragraphe 3 de l'annexe du projet)?

C 1

Dans la note du relevé-type B, il est dit que les chiffres indiqués ne comprennent pas les dépenses faites par le "Colonial Office" ou les gouvernements des colonies pour les forces terrestres qui ne relè-

vent pas du "War Office". Il serait désirable de connaître quelles sont exactement les diverses forces terrestres qui ne relèvent pas du "War Office" ainsi que les dépenses y afférentes. Ne serait-il pas possible de calculer les dépenses en question d'après le document des comptes administratifs des colonies?

D'autre part, les dépenses sus-mentionnées devraient, semble-t-il, figurer dans le relevé-type B conformément au paragraphe 8 de l'annexe du projet dans le rapport du Comité des Experts.

Observations sur le relevé-type C.

- C 2 et 3 A l'aide de quel critère les dépenses pour l'entretien et les réparations des porte-aéronefs et les dépenses pour l'entretien des navires pourvus d'une plateforme à aéronefs sont-elles divisées entre les forces navales et les forces aériennes?

Observations sur le relevé-type D.

- C 1 Sur quelle base la contribution annuelle du gouvernement de l'Inde pour les services des effectifs et les services des non-effectifs est-elle calculée?
- C 1 Les dépenses pour les forces aériennes aux Indes sont imputées au compte des forces aériennes de la Grande-Bretagne, mais le personnel et les aéronefs des dites forces ne sont pas compris dans les forces de la Grande-Bretagne.
- C 1 Les demi-soldes des officiers sont exclues du relevé-type avec les autres pensions. Quel en est le motif? Elles semblent devoir être comprises dans les dépenses de la défense nationale comme les mêmes dépenses insérées dans les relevés-types B et C.

附屬甲第二號

OBSERVATIONS DE LA DÉLÉGATION JAPONAISE SUR LA DOCUMENTATION
DU GOUVERNEMENT DE L'INDE CONCERNANT LES DÉPENSES DE
LA DÉFENSE NATIONALE.

Classification

Observations sur le relevé-type D.

- C. 1 1. Faut-il comprendre qu'il existe entre l'armée de l'Inde, envisagée au point de vue des dépenses, et la même armée, envisagée au point de vue des effectifs et des aéronefs, une concordance dans les contenus et dans les limites?
- C. 1 et 8 2. a) contributions de la part du gouvernement de l'Inde pour les services des "home effectives" £ 106,250.

b) sommes remboursées par le gouvernement de l'Inde £ 600,100.
Est-ce que le total ou une partie de ces sommes sont compris dans les dépenses des forces aériennes de l'Inde? S'il n'en est pas ainsi dans quelle catégorie sont-ils compris?

附屬甲第三號

OBSERVATIONS DE LA DÉLÉGATION JAPONAISE SUR LA DOCUMENTATION
FOURNIE PAR LE GOUVERNEMENT FRANÇAIS CONCERNANT LES
DÉPENSES DE LA DÉFENSE NATIONALE.

Classification

D'Armée.

- D 1. c. 1. Pourra-t-on connaître le montant des dépenses et les articles du budget y relatifs pour les troupes suivantes :

- a) les troupes stationnées dans le nord de la Chine.
- b) les troupes stationnées à Shanghai.

II. D'après le mémorandum fourni en date du 16 juillet 1931 (C. 440, M. 187.) par le gouvernement français, en 1925-1926 les événements du Maroc et l'obligation de faire face en Syrie aux responsabilités entraînées par le mandat confié à la France, ont exigé l'emploi de 133.000 hommes au Maroc et de 36.000 hommes en Syrie. Ce renforcement d'effectifs avait nécessité l'envoi de 72.500 hommes de la métropole. Pourra-t-on connaître les dépenses globales extraordinaires causées par ces événements ?

La Marine.

C. 2 et 3

1. A l'aide de quel critère les dépenses pour l'entretien et la réparation des navires porte-aéronefs sont-elles partagées entre les forces navales et les forces aériennes ?

C. 8

II. D'après le tableau de concordance les dépenses suivantes ont été exclues des dépenses de la défense nationale : hydrographie générale, surveillance des pêches, service géographique, bourses d'études et autres dépenses d'instruction sans caractère militaire ou technique, œuvres d'assistance. Pourra-t-on connaître les méthodes et les critères de cette exclusion des dépenses concernant la défense nationale.

附屬甲第四號

OBSERVATIONS DE LA DÉLÉGATION JAPONAISE SUR LA DOCUMENTATION
POLONAISE CONCERNANT LES DÉPENSES DE LA DÉFENSE
NATIONALE.

Classification

Observations.

C

D'après la communication du Gouvernement polonais en date du 14 septembre 1931 concernant les situations des armements (Conf. D.C. 17), les corps de protection de zones frontières sont considérés

comme une formation organisée militairement. Or ils ne sont pas mis clairement parmi les éléments ayant trait à la défense nationale énumérés dans la lettre de la Délégation polonaise en date du 30 avril 1932 (Conf. D.C/D.C.T. 52).

Est-ce que la Délégation polonaise entend par là présenter le relevé-type des dépenses des corps de protection de zones frontières sous condition de réciprocité, comme les autres éléments ayant trait à la défense nationale.

附屬甲第五號

OBSERVATIONS DE LA DÉLÉGATION JAPONAISE SUR LA DOCUMENTATION
ALLEMANDE CONCERNANT LES DÉPENSES DE DÉFENSE
NATIONALE.

Classification

D

1. Pourrait-on avoir l'explication détaillée au moyen de tableaux adjoints sur la différence entre les chiffres bruts des relevés-types et les chiffres nets des comptes clos (différence pour l'armée R.M. : 10.554.037, différence pour la marine R.M. : 2.354.906) mentionnée au tableau sommaire des tableaux de concordance.

C

2. Pourrait-on avoir l'explication détaillée suivant les articles des comptes clos de divers ministères sur la somme de R.M. : 15.133.876 pour l'armée et sur la somme de R.M. : 3.674.459 pour la marine.

OBSERVATIONS DE LA DÉLÉGATION JAPONAISE SUR LA DOCUMENTATION
AMÉRICAINNE CONCERNANT LES DÉPENSES DE DÉFENSE
NATIONALE.

Classification

- A I. D'après la réponse américaine en ce qui concerne le système budgétaire, le "Deficiency Bill" semble être soumis au Parlement après l'expiration de l'année budgétaire pour parer au déficit des prévisions de ladite année.
- II serait désirable de savoir si ce déficit se rapporte seulement aux revenus? Dans l'affirmative est-ce que ces dépenses sont incluses dans le Tableau "B"?
- A II. Dans le Budget du "War Department" les dépenses pour les activités non militaires sont exclues du Tableau "B".
- Pourrait-on avoir l'explication détaillée par article des raisons de cette exclusion?
- A III. N'y a-t-il pas de dépenses des gouvernements locaux pour les troupes stationnées aux îles Hawaï et aux Philippines?
- A IV. Pourrait-on avoir une explication sur les "continuing appropriations"? Ces crédits ne sont-ils pas limités à un certain nombre d'années et pour chaque année?
- D V. Dans le relevé-type "C", il n'y a pas de chiffres pour les soldes, traitements, indemnités diverses pour personnel civil. Dans la marine n'existe-t-il pas de personnel civil en service?
- C Dans l'affirmative, les dépenses y relatives sont-elles incluses dans d'autres rubriques?
- VI. Où pourrait-on trouver dans le compte les dépenses pour les troupes stationnées en Chine et au Panama?

C	VII. D'après le budget présenté au Parlement cette année, les dépenses pour les forces aériennes de l'année 1930, sont comme suit: (page 154)	
	Air Corps	27,923,870
	Salaries office of chief of Air Corps	216,836
	Total	28,140,706
	Or, la somme indiquée dans le document D.C.C.T./66, page 7, en ce qui concerne ces dépenses, est \$58,279,383.—	
	Pourrait-on avoir l'explication de cette différence énorme? Dans quels articles ces dépenses sont-elles comprises?	

附屬甲第七號

OBSERVATIONS DE LA DÉLÉGATION JAPONAISE SUR LA DOCUMENTATION
ITALIENNE CONCERNANT LES DÉPENSES DE DÉFENSE
NATIONALE.

Classification

- C 1. D'après la note du relevé-type B dans le document Conf. D. 13 (page 11), le total du relevé B comprend 3,000,000 de livres afférentes à certaines dépenses qui ont été effectuées pendant l'exercice budgétaire 1930-31, mais dont le paiement n'a pas eu lieu au cours dudit exercice à cause d'un retard du crédit.
- Pourrait-on entendre par là une dérogation aux instructions du chapitre V du rapport du Comité des Experts?
- C 2. D'après la note "e" du relevé-type B, dans le document Conf. D. 13 (page 11), dans la catégorie des dépenses effectuées pour les calamités naturelles seulement, les paiements réellement effectués

ont été inclus dans le montant prévu dans le relevé, tandis que d'après "e", annexe B du document Conf. D.C.T./75 (page 15), les dépenses effectuées pour les calamités naturelles sont exclues du montant prévu dans le relevé.

Pourrait-on avoir une explication sur ce point?

C 3. D'après le relevé-type C (page 44) le total des subsides au personnel civil en retraite etc. est réparti en fractions égales A,B,C,M.

Pourrait-on avoir une explication sur la nature de ces subsides et le critère de répartition entre ces rubriques.

C 4. Pourrait-on avoir une explication sur la somme allouée pour cession à d'autres administrations (page 44, colonne n° 5)?

Pour quel motif a-t-on fait une distinction entre la colonne 4 et la colonne 5?

C 5. Qu'est-ce que le "fonds à la main pour les navires" (page 46 du relevé-type C)?

A 5. D'après la réponse italienne aux questions du système budgétaire, le budget italien est annuel et en général il n'y a pas de transfert de crédit d'une année à l'autre: font exception toutefois certains chapitres du budget militaire expressément indiqués par la loi des budgets.

Quels sont ces chapitres?

附 屬 乙

國防費委員會及同專門委員會關係重要文書表

一、國防費委員會ノ議題ニ關スル幹部ノ提案

(Conf. D./C. D./2)

二、専門分科會ノ構成及任務ニ關スル決定

(Conf. D./C. D./4)

三、國防費委員會ノ議題

(Conf. D./C. D./14)

四、各國ノ軍事費現狀通報ニ關スル「メモランダム」

(Conf. D./C. D./C.T./1)

五、豫算制度ニ關スル質問集

(Conf. D./C. D./6)

六、各國文書審査規定

(Conf. D./C. D./7)

七、各國文書ニ對スル質問綱領ノ「エイド、メモアール」

(Conf. D./C. D./C.T./32)

八、同 追 加

(Conf. D./C. D./C.T./56)

九、對照表軍事豫算決算ノ統一ニ關スル獨逸提案

(Conf. D./C. D./15)

一〇、經費額ヲ基礎トシテ軍備力ノ比較不可能ナルコトニ關スル伊太利提案修正案

(Conf. D./C. D./19)

一一、議會協賛豫算ノ公表ニ關スル佛國提案

(Conf. D./C. D./17)

一二、豫算外經費ニ關スル獨逸提案

(Conf. D./C. D./18)

一三、總經費及純經費ニ關スル支那覺書

(Conf. D./C. D./20)

一四、經費ノ三軍別ニ關スル芬蘭提案

(Conf. D./C. D./20)

一五、同 波蘭提案

(Conf. D./C. D./24)

一六、條約案第三十三條ニ關スル日本提案

(Conf. D./C. D./27)

一七、同 蘇聯提案

(Conf. D./C. D./26)

一八、軍事工業ニ投資セラレタル私的資本ニ關スル蘇聯提案

(Conf. D./C. D./21)

一九、専門分科會ヘノ附託問題表

(Conf. D./C. D./C.T./74)

附記、各國提案文書及其關係書類表ハ之ヲ省略ス